

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の考察

苫小牧市

公表

平成30年8月24日

苫小牧市教育委員会 教育部 指導室

目次

○平成30年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果	1
・調査の概要	1
・小学校国語科	2
・小学校算数科	3
・小学校理科	4
・中学校国語科	4
・中学校数学科	5
・中学校理科	6
○平成30年度全国学力・学習状況調査児童質問紙（小学6年児童）調査の結果と考察	7
・自己肯定感	7
・基本的な生活習慣	8
・家庭生活（学習習慣・家族）	9
・社会や地域への関心	11
・学習（算数科に関して）	13
・学習（理科に関して）	16
・学習（授業に関して）	20
・今回の調査問題	21
○平成30年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙（中学3年生徒）調査の結果と考察	22
・自己肯定感	22
・基本的な生活習慣	23
・家庭生活（学習習慣・家族）	24
・社会や地域への関心	26
・学習（数学科に関して）	28
・学習（理科に関して）	31
・学習（授業に関して）	34
・今回の調査問題	35
○平成30年度全国学力・学習状況調査学校質問紙調査の結果と考察	36
・学力向上に向けた取組	36
○平成30年度全国学力・学習状況調査の概況 ～正答数分布グラフ～	38
・小学校国語A	38
・小学校国語B	38
・小学校算数A	39
・小学校算数B	39
・小学校理科	40
・中学校国語A	41
・中学校国語B	41
・中学校数学A	42
・中学校数学B	42
・中学校理科	43

平成30年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

平成30年8月24日 苫小牧市教育委員会

・平均正答率については、文部科学省が「序列化や過度な競争を助長する」「細かい桁の違いが学力の実質的な違いを示すものではない」として、昨年度から四捨五入した整数値で公表しております。そのため、過去の結果（数値）と今年度の結果（数値）の正確な比較はできないことから、過去の数値は示さず、傾向を見取る参考となるグラフのみを示しております。

調査の概要

- 1 実施日
平成30年4月17日（火）
- 2 調査対象
(1) 小学校第6学年
(2) 中学校第3学年
- 3 対象学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
苫小牧市	1, 465	24	1, 382	15
北海道	39, 617	1, 016	39, 683	590

- 4 調査事項
 - (1) 教科に関する調査
 - ①主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A）
 - ②主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B）
 - ③主として「知識」及び「活用」に関する問題（理科） ※一体的に出題
 - (2) 生活習慣、学習環境等に関する質問紙調査
 - ①児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
 - ②学校に対する調査（指導方法、教育条件の整備等）

苫小牧市の小・中学校における全体的な傾向

- ☆小・中学校ともに、国語A・Bの平均正答率が全国平均と2%程度の差となっています。
- ☆小・中学校ともに、理科の平均正答率が全国平均に近づいています。
- ☆児童生徒質問紙から、課題の解決に向けて発表の仕方に工夫したり、話し合い活動を通じて考えを深めたり、資料を活用したりするなどの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の傾向がみられます。
- ☆学校質問紙から、小中連携教育に関する取組状況が、全国平均を大きく上回っています。
- ★小・中学校ともに、算数・数学A・Bの正答率が全国平均と3%以上の差となっています。
- ★児童生徒質問紙から、小・中学校ともに理科の授業における観察や実験の実施頻度が全国平均を大きく下回っています。また、社会や地域への関心に関する設問では、経年比較で改善傾向がみられるものの全国平均を下回る設問が多くみられます。

小学校 教科に関する調査結果

国語A (小学校) 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	8.5 / 12	71
北海道	8.4 / 12	70
全国	8.5 / 12	70.7

平均正答数

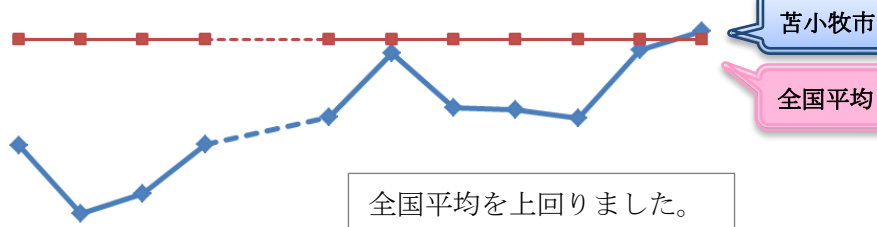
出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



- ・平成22年度は抽出調査です。
- ・平成23年度は、東日本大震災のため、全国一斉の調査を行っておりません。北海道は実施しましたが、全国の平均値がないため比較できません。

分析と考察

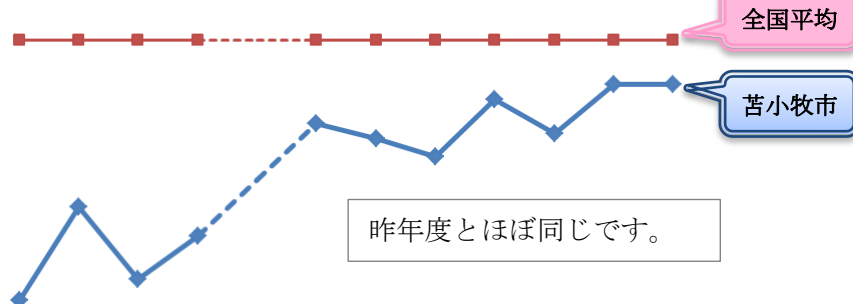
- 「話すこと・聞くこと」では、伝えたいことを事例をあげながら筋道を立てて話すことについて、全国平均をやや下回っています。
- 「読むこと」では、登場人物の心情を情景描写を基に捉えることについて、全国平均を大きく下回っており課題がみられます。
- 「言語事項」では、漢字を文の中で正しく使うことについて、ほとんどの設問で全国平均を上回っています。

国語B (小学校) 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	4.3 / 8	53
北海道	4.2 / 8	53
全国	4.4 / 8	54.7

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



分析と考察

- 「話すこと・聞くこと」では、全ての設問で全国平均を下回っています。特に、計画的に話し合うために、司会の役割を捉えることについて課題がみられます。
- 「書くこと」では、目的や意図に応じ内容の中心を明確にして詳しく書くことについて全国平均を上回っています。
- 「読むこと」では、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読むことについて全国平均を下回っており、無回答率も10%以上あり課題がみられます。

算数A (小学校) 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	8.4 / 14	60
北海道	8.7 / 14	62
全国	8.9 / 14	63.5

平均正答数

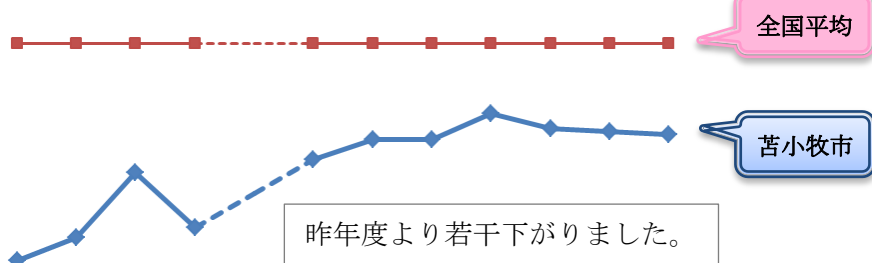
出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



分析と考察

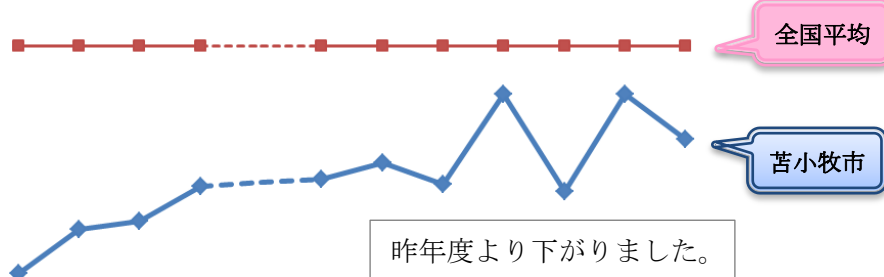
- 「数と計算」では、全ての設問で全国平均を下回っています。特に、数量の関係を理解し数直線上に表すことについて課題がみられます。
- 「図形」では、全ての設問で全国平均を下回っています。特に、直径の長さや円周の長さの関係について課題がみられます。
- ・「数量関係」では、折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることについて全国平均を上回っています。一方で、百分率を求めることについて、全国平均を下回っており課題がみられます。

算数B (小学校) 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	4.8 / 10	48
北海道	4.9 / 10	49
全国	5.1 / 10	51.5

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



分析と考察

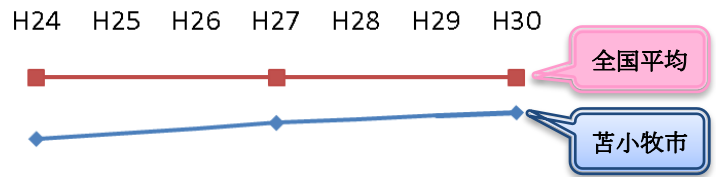
- 「数と計算」では、折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述することについて、全国平均を下回っており課題がみられます。
- 「量と測定」では、図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述することについて、無回答率が高く課題がみられます。
- 「数量関係」では、メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することについて、正答率がわずか17%と課題がみられます。

理科（小学校） 平成30年度結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	9.4 / 16	59
北海道	9.4 / 16	59
全国	9.6 / 16	60.3

・理科については、平成25年度、平成26年度、平成28年度、平成29年度の実施はありません。

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)



全国平均に近づいています。

分析と考察

- ・「物質」では、食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す「科学的な思考・表現」について、全国平均を上回っています。一方で、無回答率が高いという二極化がみられました。
- 「エネルギー」では、乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる「科学的な思考・表現」について、全国平均を上回っています。
- 「地球」では、より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することについて、正答率が低く課題がみられます。

中学校 教科に関する調査結果

国語A（中学校） 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	24.1 / 32	75
北海道	24.5 / 32	77
全国	24.3 / 32	76.1

平均正答数

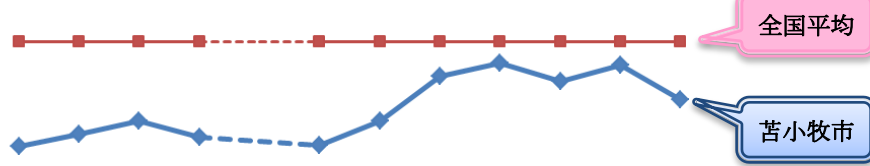
出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



昨年度より下がりました。

- ・平成22年度は抽出調査です。
- ・平成23年度は、東日本大震災のため、全国一斉の調査を行っておりません。北海道は実施しましたが、全国の平均値がないため比較ができません。

分析と考察

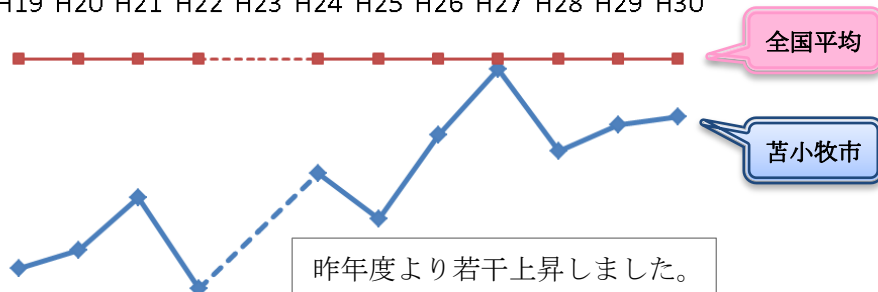
- 「話すこと・聞くこと」では、話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことについて、全国平均を上回っています。
- 「読むこと」では、文脈の中における語句の意味を理解することについて、全国平均を下回っており課題がみられます。
- ・「言語事項」では、約半数の設問について全国平均を上回っています。一方で、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことについて、正答率が低く課題がみられます。

国語B（中学校） 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	5.3 / 9	59
北海道	5.5 / 9	61
全国	5.5 / 9	61.2

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



分析と考察

- 「話すこと・聞くこと」では、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことについて、全国平均を上回っています。
- 「書くこと」では、相手に的確に伝わるようにあらすじを捉えて書くことについて、全国平均を下回っています。また、無回答率も高く課題がみられます。
- 「書くこと」と「読むこと」の複合問題では、「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書くことについて、正答率が11%と低く課題がみられます。

数学A（中学校） 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	22.7 / 36	63
北海道	23.4 / 36	65
全国	23.8 / 36	66.1

平均正答数

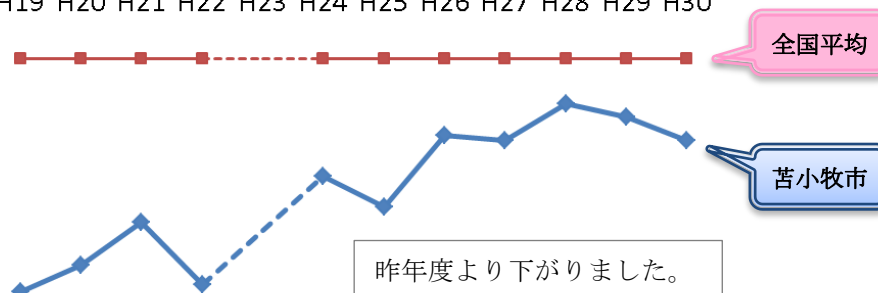
出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



分析と考察

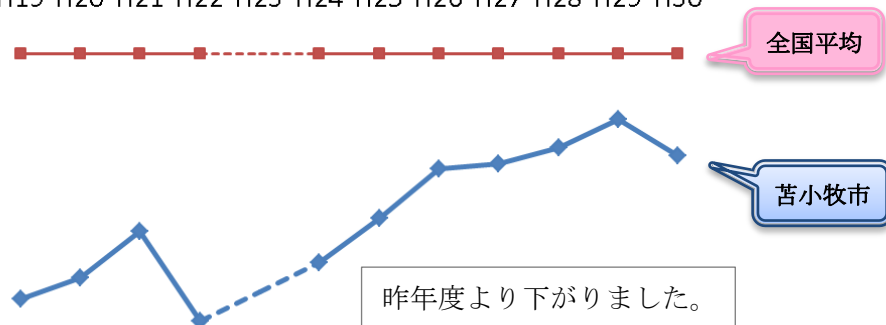
- 「数と式」では、全ての設問で全国平均を下回っており課題がみられます。特に、絶対値の意味理解を問う問題で、全国平均を大きく下回っています。
- 「図形」では、見取図、投影図から空間図形を読み取ることについて、全国平均を大きく下回っており課題がみられます。
- 「資料の活用」では、表などを利用して確率を求めることについて、全国平均を下回っています。また、無回答率も高く課題がみられます。

数学B（中学校） 平成30年度結果

	平均正答数(問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	6.0 / 14	43
北海道	6.4 / 14	46
全国	6.6 / 14	46.9

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



分析と考察

- 「図形」では、条件を変えた場合に証明の一部を書き直すことについて、全国平均を大きく下回っており、課題がみられます。
- 「関数」では、問題解決の方法を数学的に説明する問題で、正答率が8%と低く課題がみられます。無回答率も約40%と、解答することに困難さを感じている様子がうかがえます。
- 「資料の活用」では、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する問題について、全国平均を下回っており課題がみられます。

理科（中学校） 平成30年度結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	17.7 / 27	66
北海道	18.0 / 27	67
全国	17.9 / 27	66.1

苫小牧市と全国平均との差(平均正答率)

H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30



・理科については、平成25年度、平成26年度、平成28年度、平成29年度の実施はありません。

分析と考察

- ・「物理」では、ほぼ全ての設問で全国平均と同等です。しかし、光の反射の規則性に関する知識・技能を活用する問題について、全国平均を下回っており課題がみられます。
- ・「化学」では、約半数の設問で、全国平均を上回っています。一方で、炎の色と金網に付くススの量を調べる実験の条件について、全国平均を下回っており課題がみられます。
- 「生物」では、全ての設問で全国平均と同等もしくは上回っています。
- 「地学」では、コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する問題で、全国平均を下回っています。また、特に記述式の問題において、無回答率が全国平均より高く課題がみられます。

平成30年度全国学力・学習状況調査児童質問紙調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

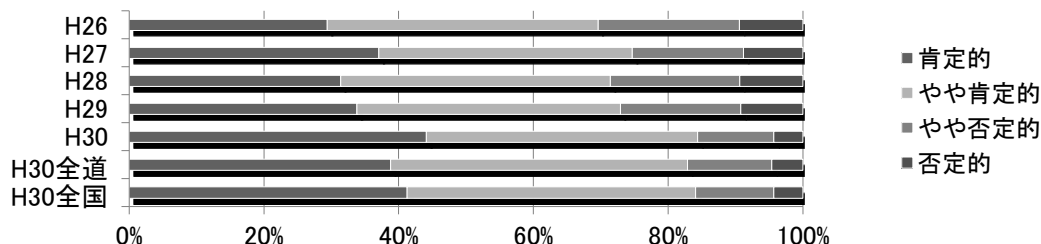
小学6年児童

- ①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
- ②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
- ③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
- ④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

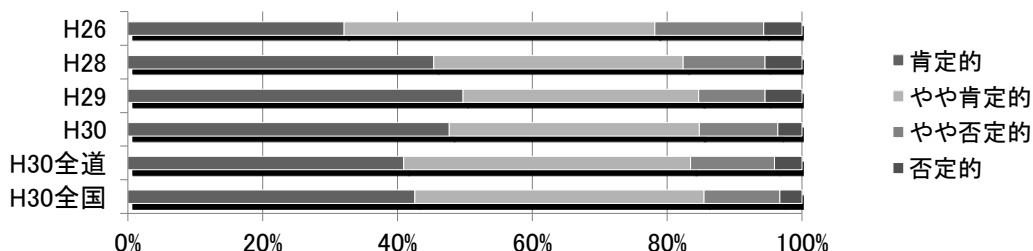
自己肯定感

【考察】 「自分には、よいところがあると思う」割合が過去最高値となっている。「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」割合も、全国平均を0.5%以上上回っている。一方、「将来の夢や目標をもっている」ことの割合が全国平均を1.3%下回っている。キャリア教育の充実が必要である。

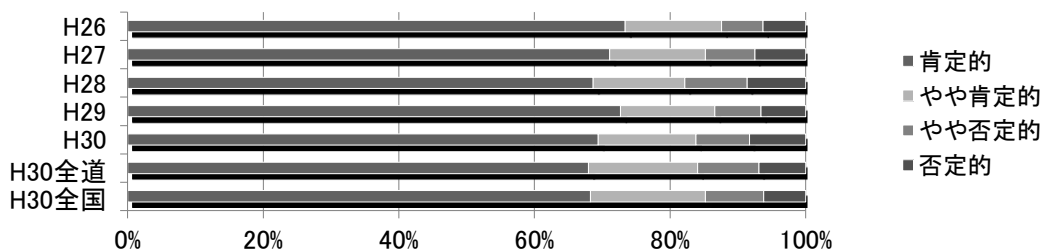
1 自分には、よいところがあると思う。



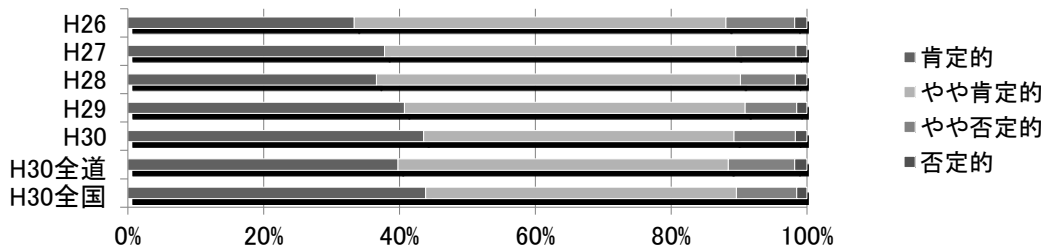
2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



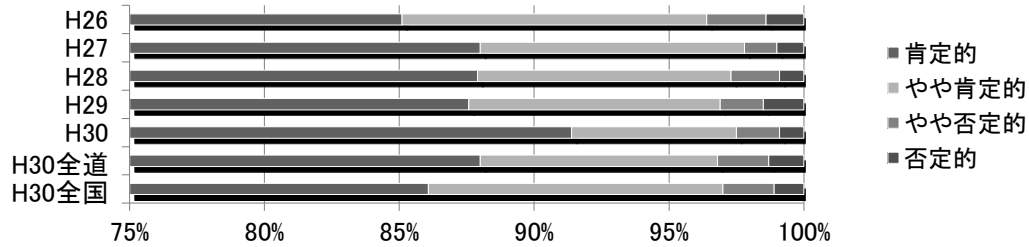
3 将来の夢や目標をもっている。



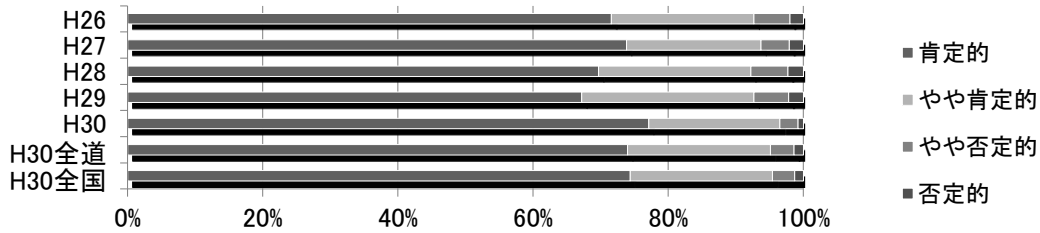
4 学校のきまりを守っている。



5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



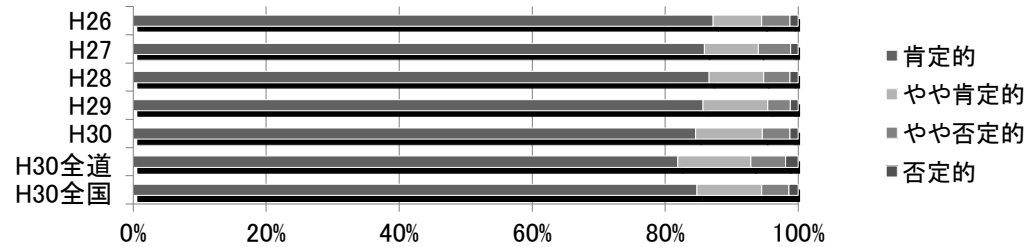
6 人の役に立つ人間になりたいと思う。



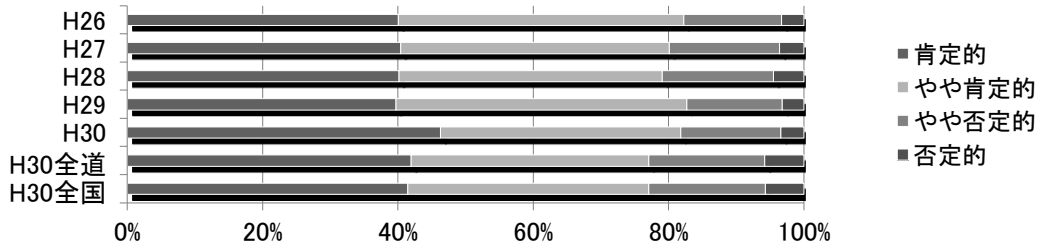
基本的な生活習慣

【考察】 同じくらいの時刻に「寝ている」、「起きている」割合が全国平均を大きく上回っていることから、生活リズムへの意識は高いことがうかがえる。一方で、「朝食を『毎日』食べている」割合が、この5年間で最低値になっている。朝食を「毎日」食べることの大切さについて、家庭への啓発を工夫する必要がある。

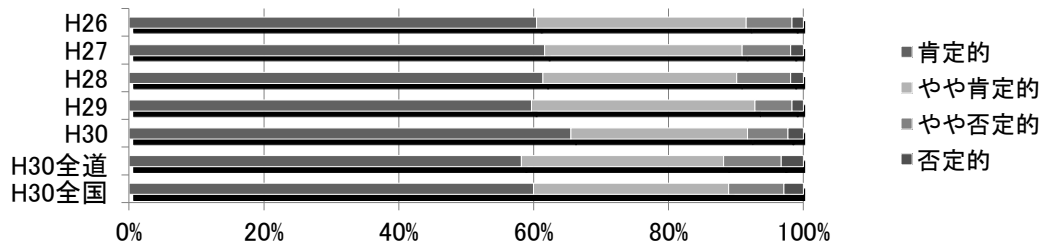
7 朝食を毎日食べている。



8 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



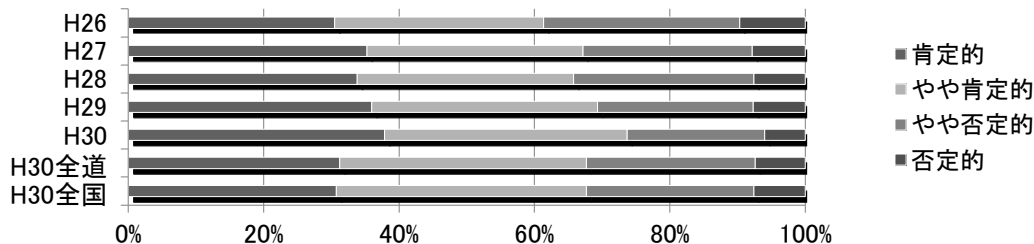
9 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



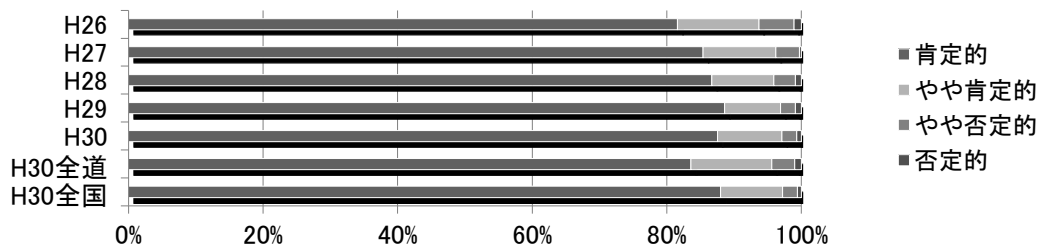
家庭生活（学習習慣・家族）

【考察】 家庭学習について、毎日60分以上学習している児童の割合が、昨年度の過去最高値を更新している。昨年度の課題であった、読書時間ゼロの割合についても、改善の兆しがみられる。一方で、放課後や週末の過ごし方について、学習塾や習い事の割合が全国平均よりも低く、ビデオ・DVD・ゲーム等の割合も高くなっている。

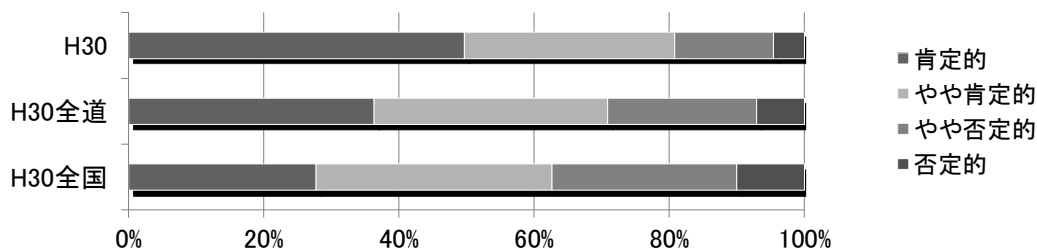
10 自分で計画を立てて勉強している。



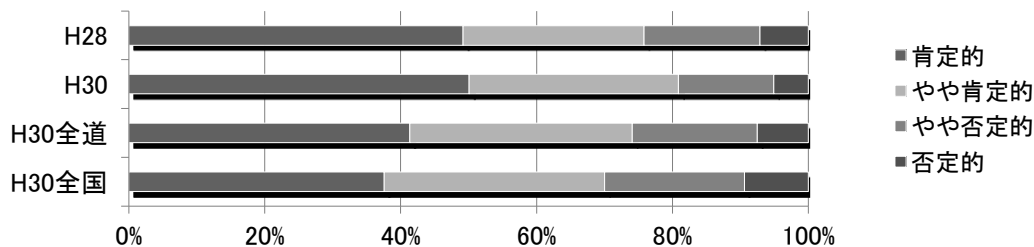
11 学校の宿題をしている。



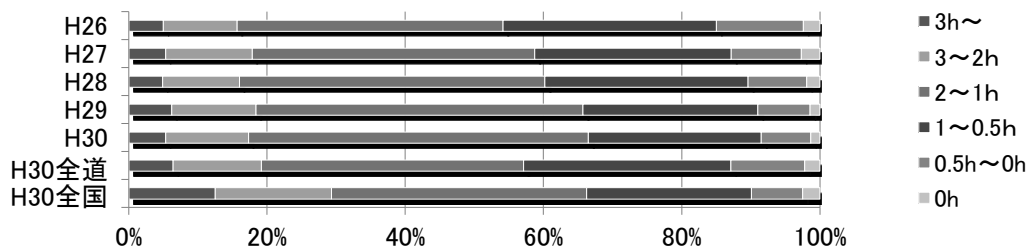
12 授業の予習・復習をしている。（新設問）



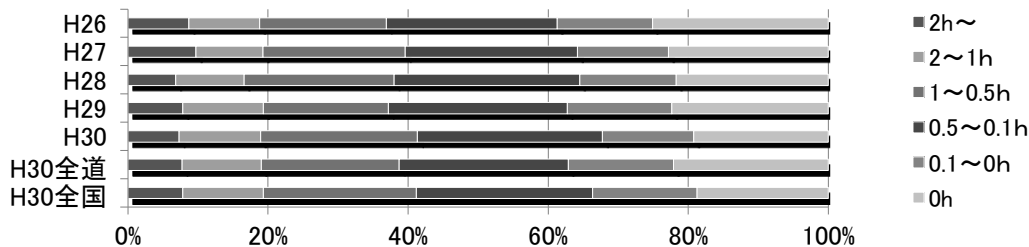
13 予習・復習やテスト勉強において、教科書を使いながら学習をしている。



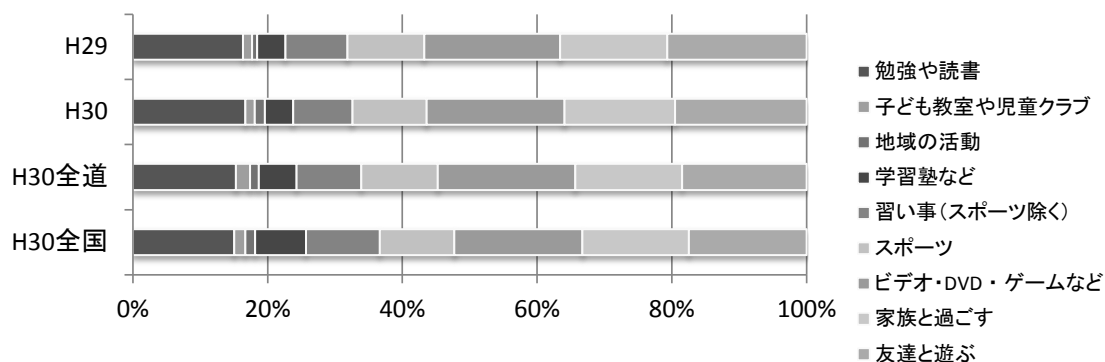
14 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。



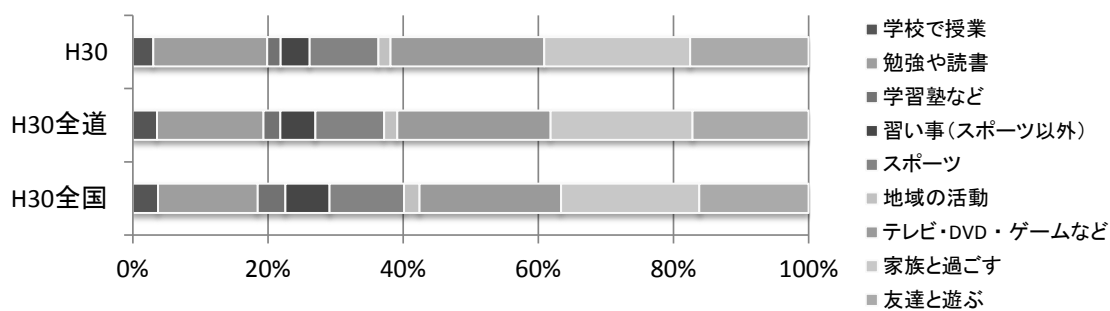
15 普段(月～金)、家や図書館における1日あたりの読書時間。



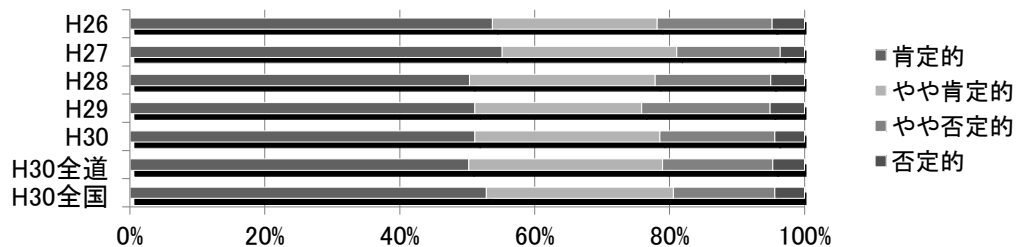
16 放課後に何をして過ごすことが多いか。



17 週末に何をして過ごすことが多いか。(新設問)



18 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話している。

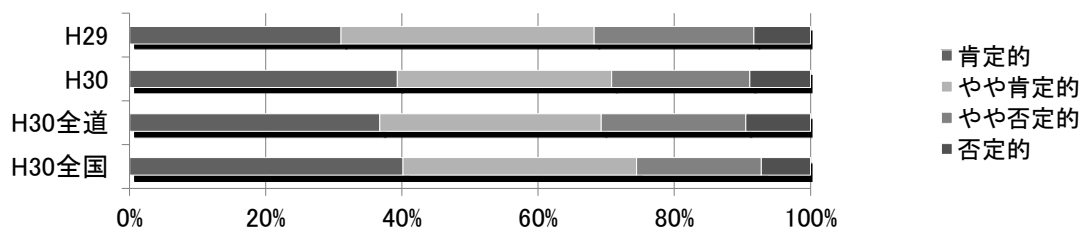


社会や地域への関心

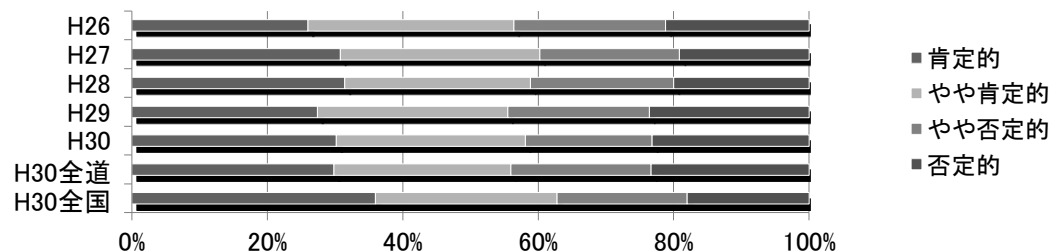
【考察】 「地域の人と関わる機会があった」、「地域の行事に参加している」、「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、遊んだりすることがある」等、地域に関する質問の肯定的割合がやや低い。地域・社会と共有・連携していくような取組の充実が必要である。

また、新聞を読む児童が年々減る傾向にあり、テレビやインターネットでニュースを見ている割合が年々高くなっている。

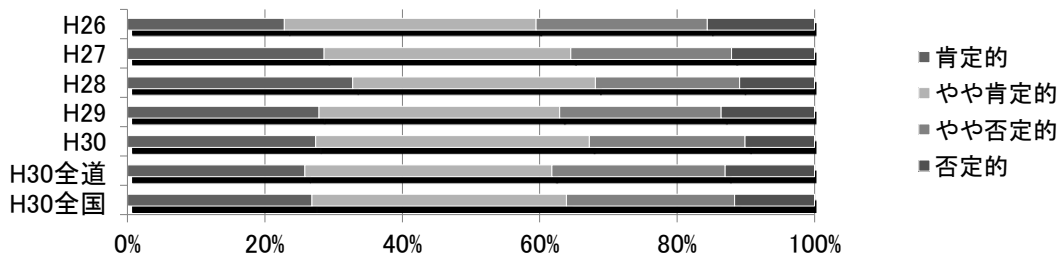
19 5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。



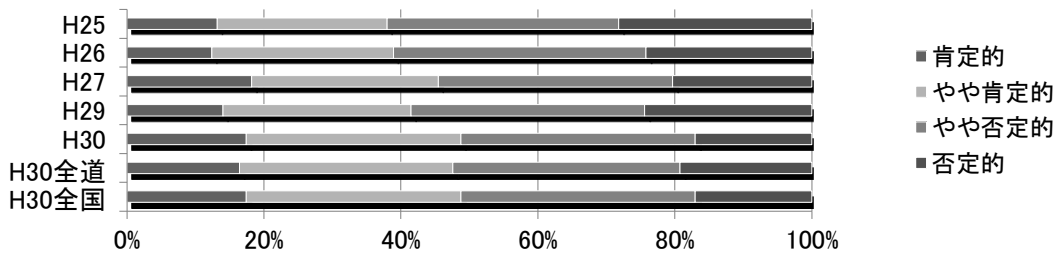
20 今住んでいる地域の行事に参加している。



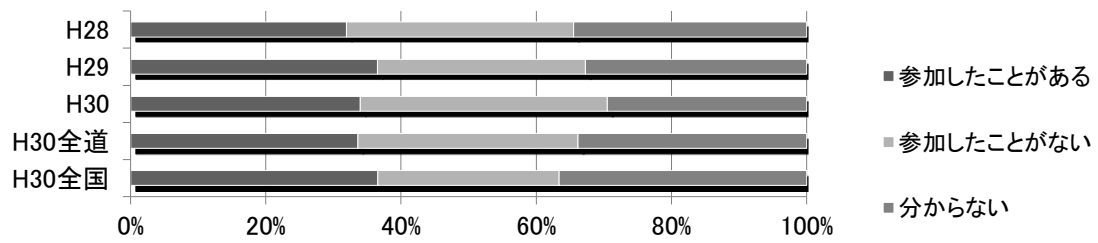
21 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。



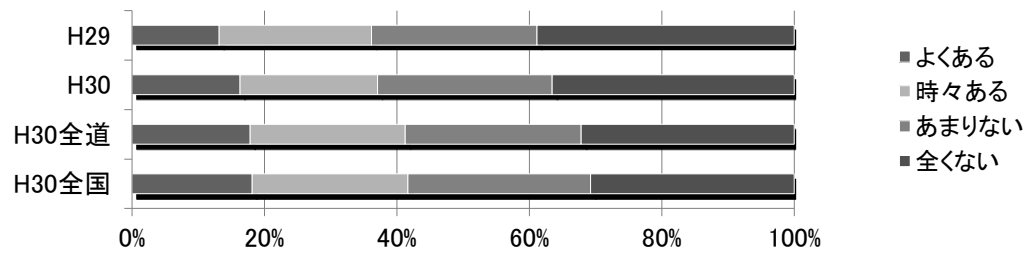
22 地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。



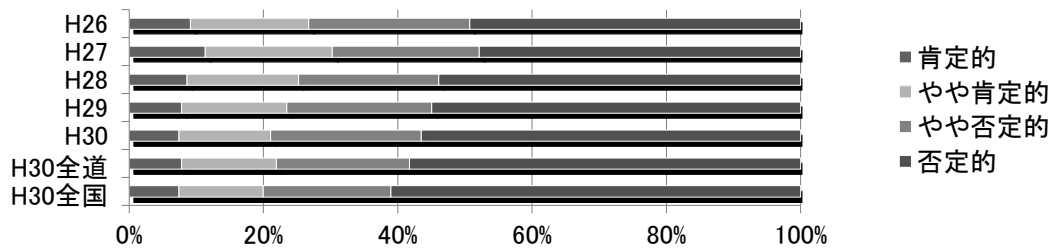
23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。



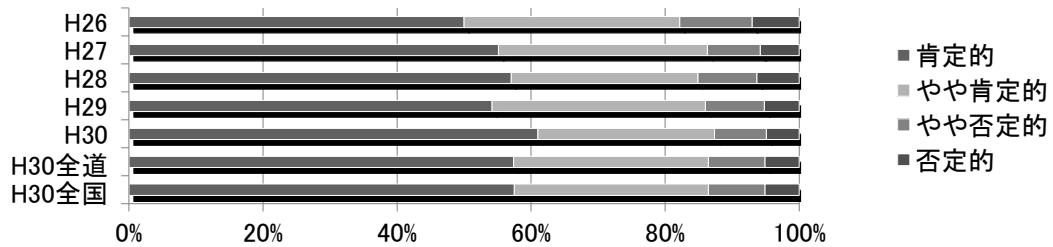
24 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。



25 新聞を読んでいる。



26 テレビやインターネットでニュースを見る。

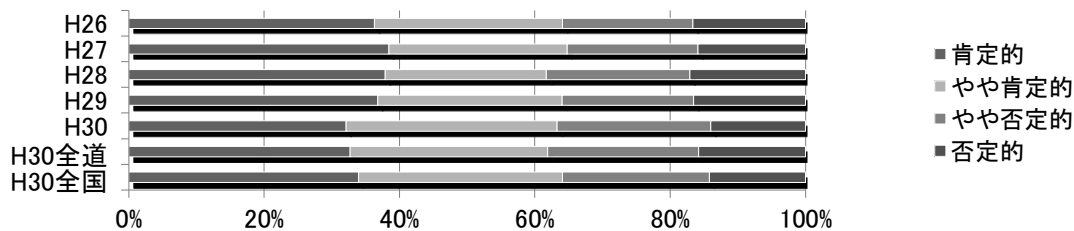


学習 (算数科に関して)

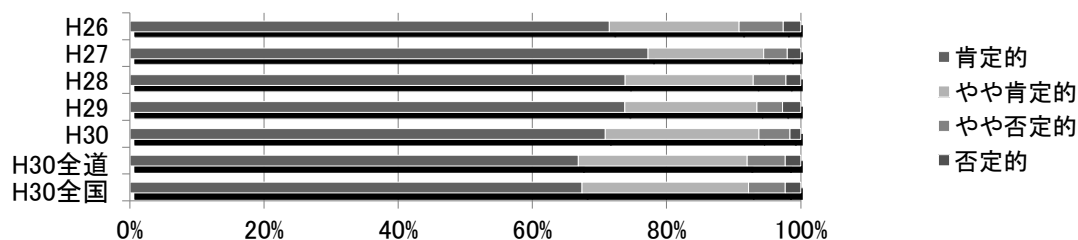
【考察】 算数科について「大切だ」、「社会で役に立つ」、「諦めずに考えている」、「もっと簡単な方法を考えている」等、肯定的回答の割合が高い。一方で、「新しい問題に出合ったとき、解いてみたいと思う」割合が、年々否定的な傾向になっている。普段の授業から、思考の手立て・見通しを与え、追求・達成していく実践が必要である。

〈算数科〉

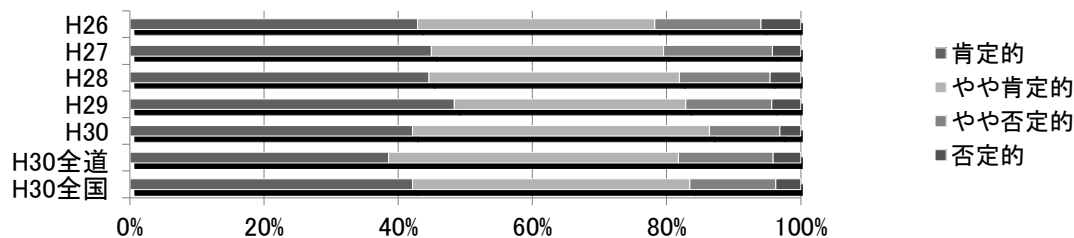
27 算数の勉強は好き。



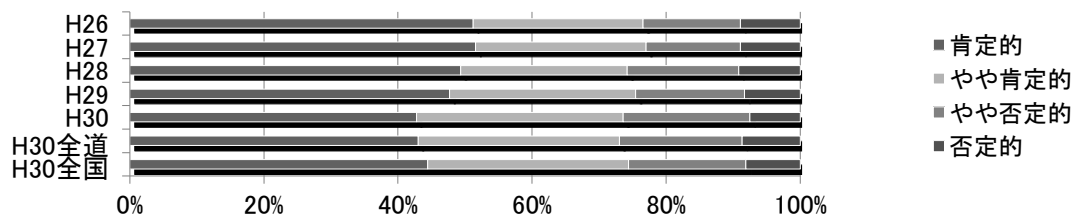
28 算数の勉強は大切だと思う。



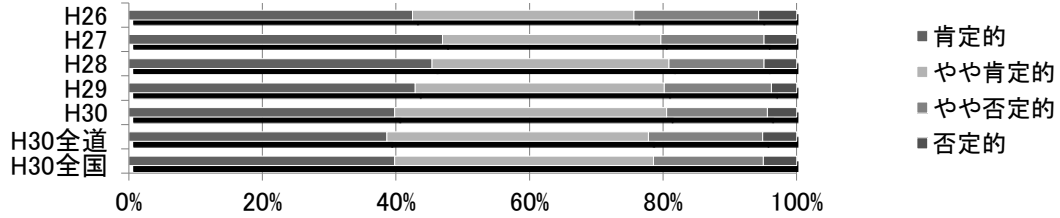
29 算数の授業の内容はよく分かる。



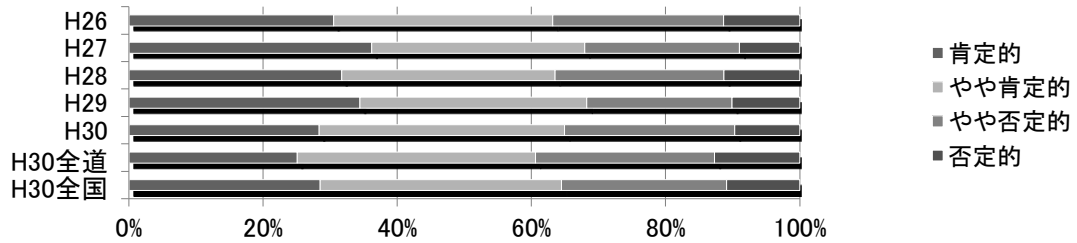
30 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。



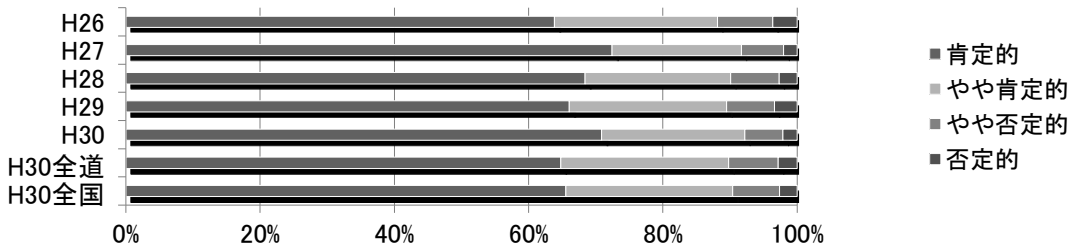
31 算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法で考える。



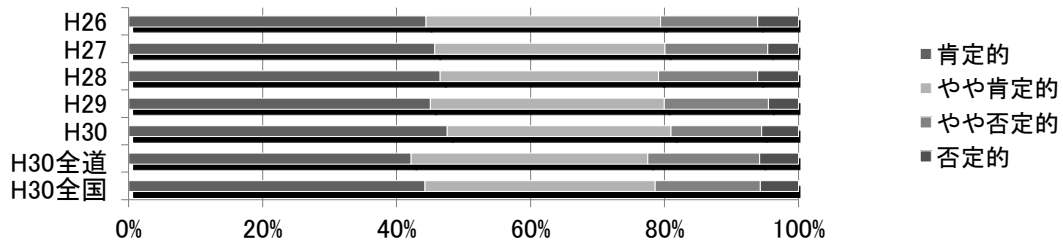
32 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



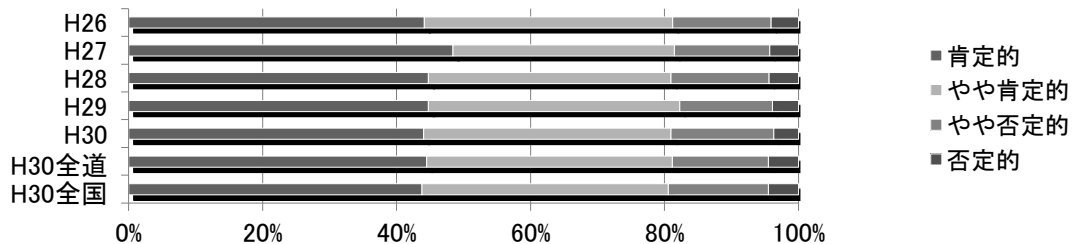
33 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



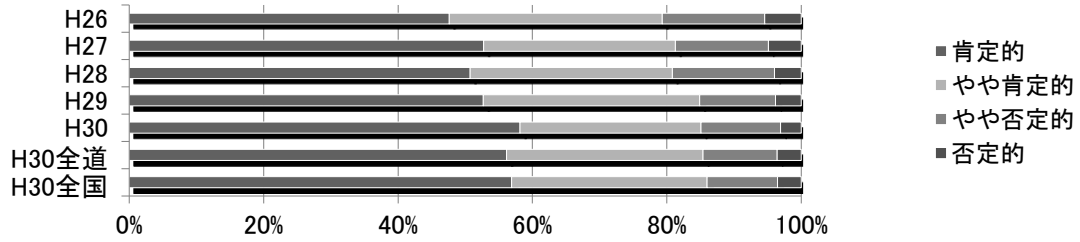
34 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。



35 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

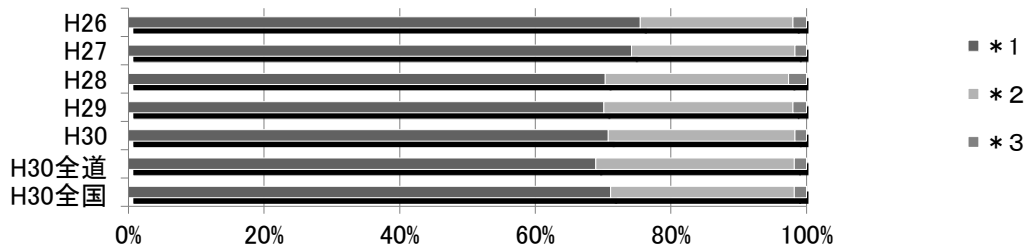


36 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。



37 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題でどのように回答したか。

- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く回答しなかった。

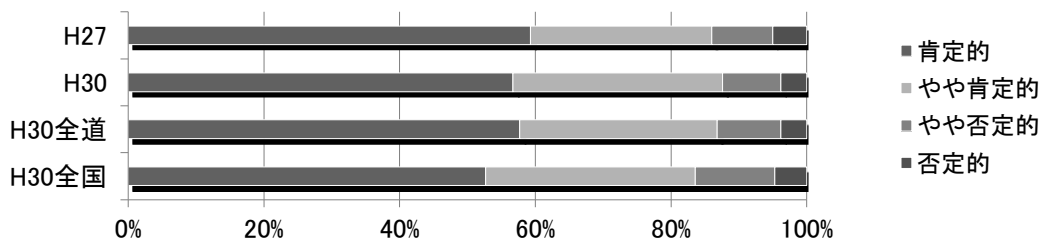


学習(理科に関して)

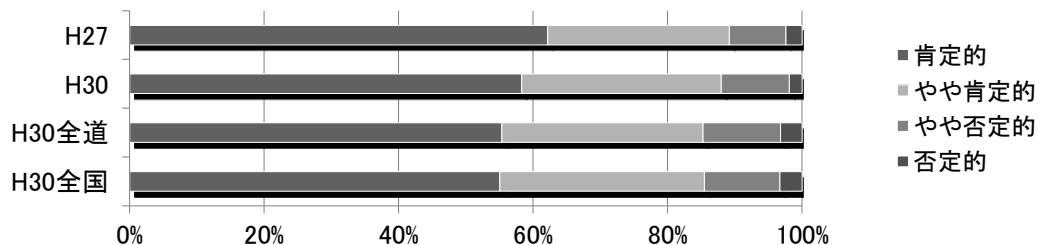
【考察】 理科について、「勉強が好き」と答えた児童や「授業の内容が分かる」と答えた児童の割合が、全国平均よりも3%以上上回っている。また、観察や実験が好きで、予想をたてることや、結果から考察したり思考を深めたりすることについても肯定的に捉えている。一方で、理科室での観察や実験の回数が、全国平均に比べて3%以上下回っており、改善が必要である。

〈理科〉

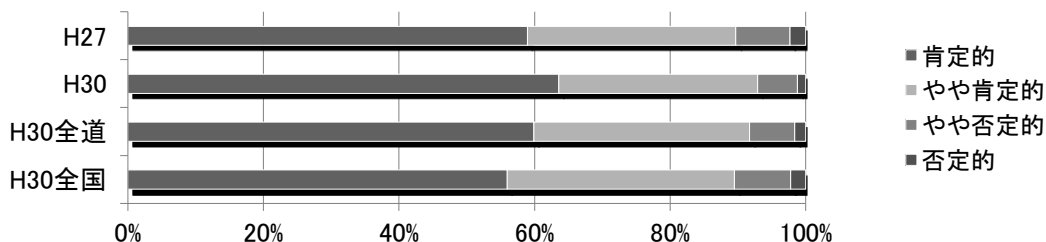
38 理科の勉強は好き。



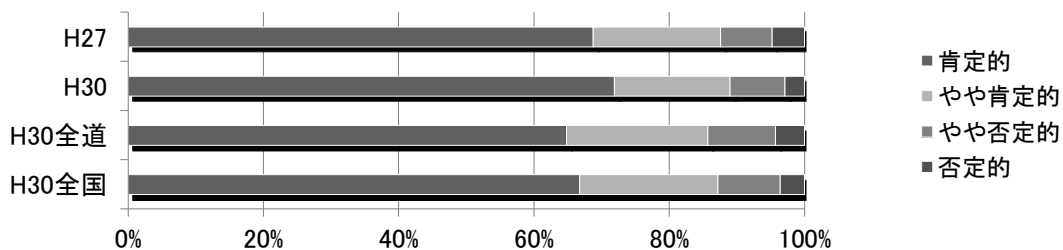
39 理科の勉強は大切だと思う。



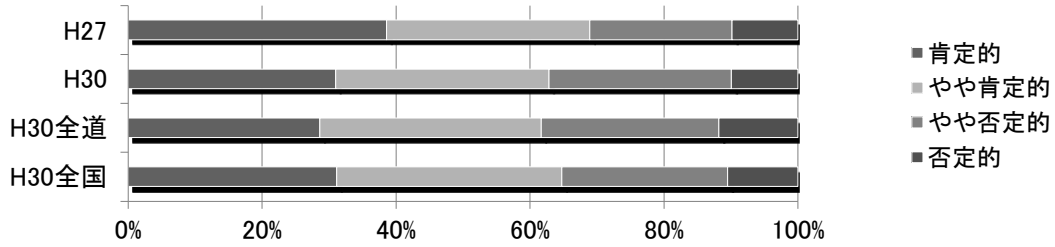
40 理科の授業の内容はよく分かる。



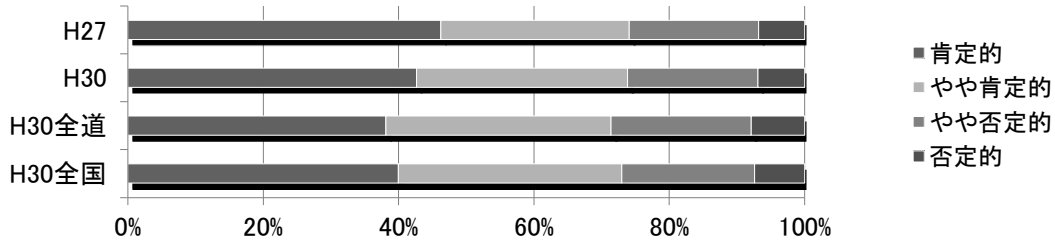
41 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。



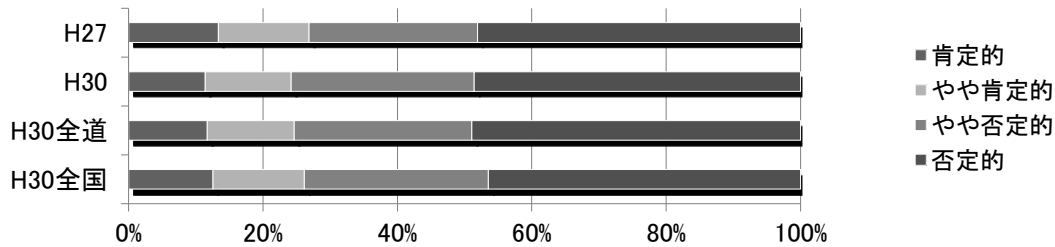
42 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



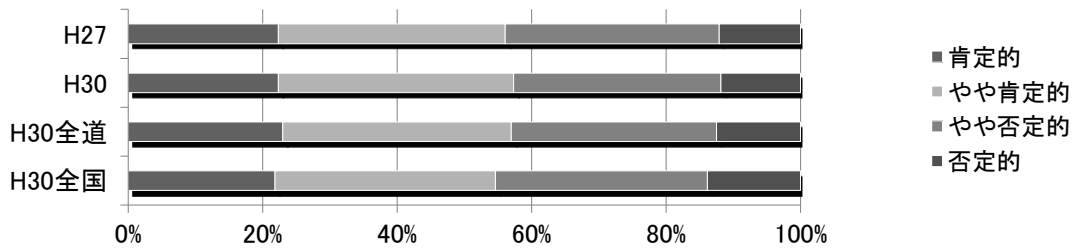
43 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



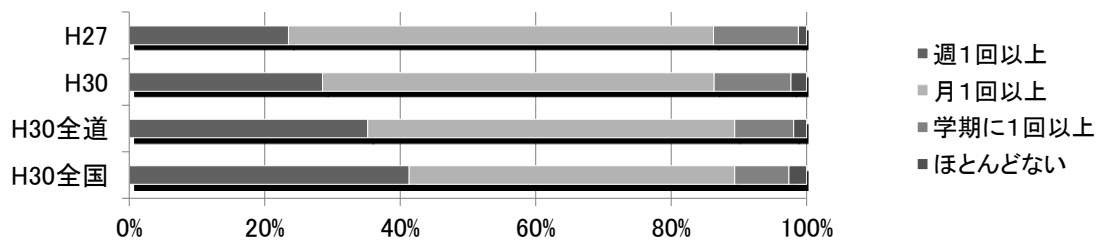
44 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思う。



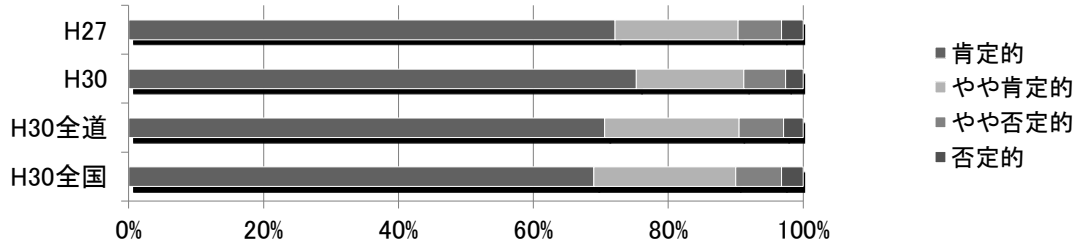
45 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。



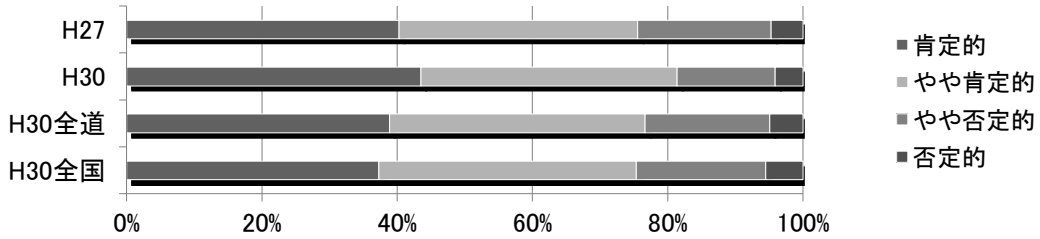
46 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行ったか。



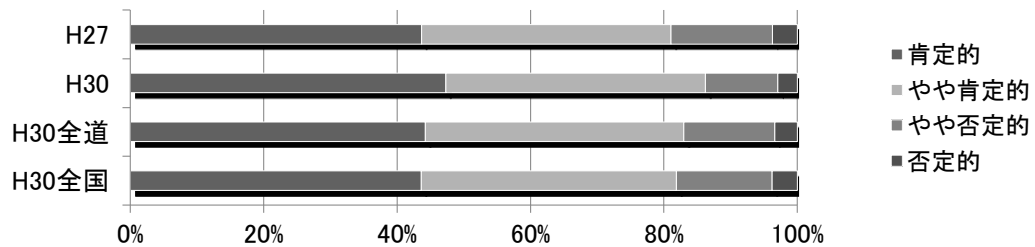
47 観察や実験を行うことは好きだ。



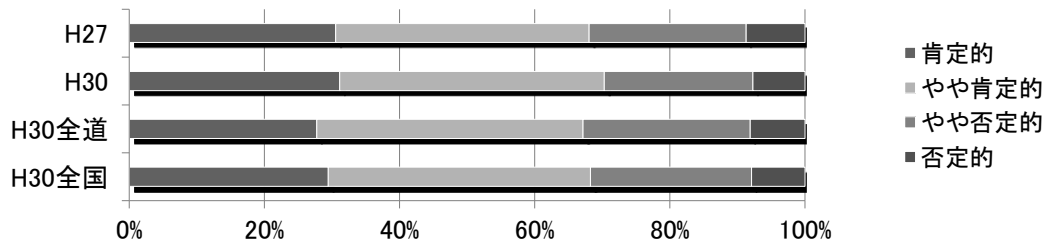
48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



49 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。

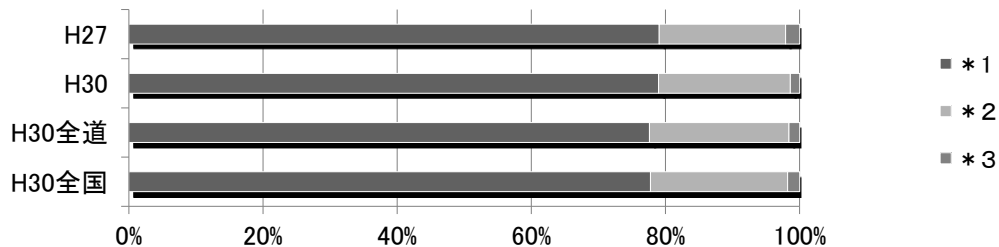


50 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。

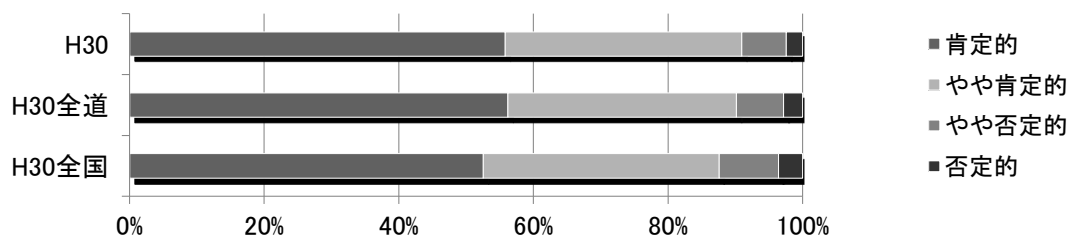


51 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題でどのように回答したか。

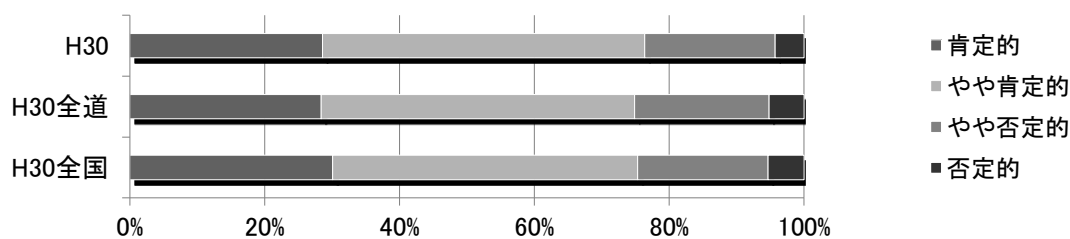
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く回答しなかった。



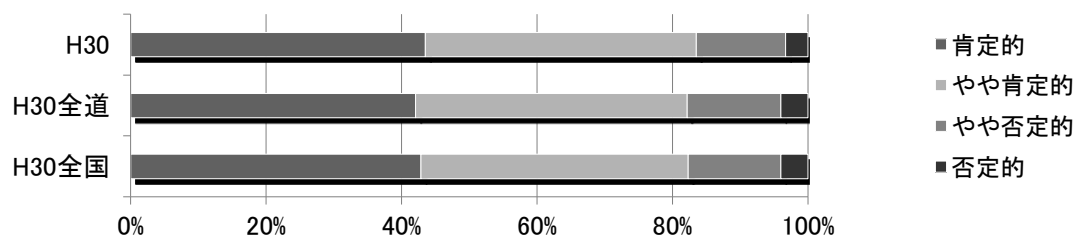
52 5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った。(新設問)



53 5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができた。(新設問)



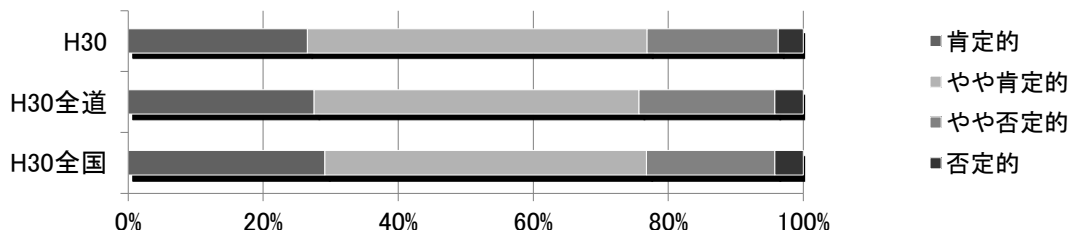
54 今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思う。(新設問)



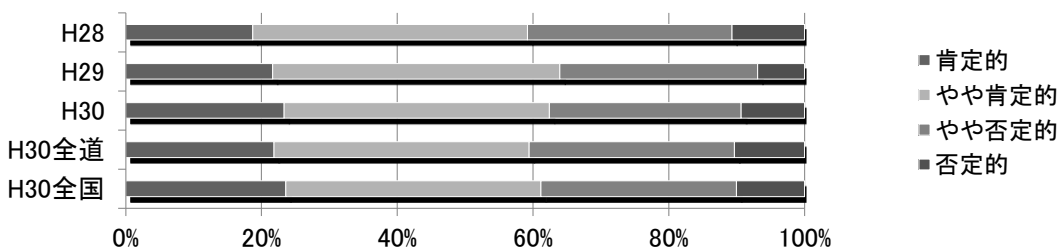
学習 (授業に関して)

【考察】 「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した割合が、年々増加し、全国平均を上回っている。他者との対話を意識し深い学びに向けた授業改善が進んでいることがうかがえる。「自分で考え、自分から取り組んでいた」という主体性については、全国平均とほぼ同等である。

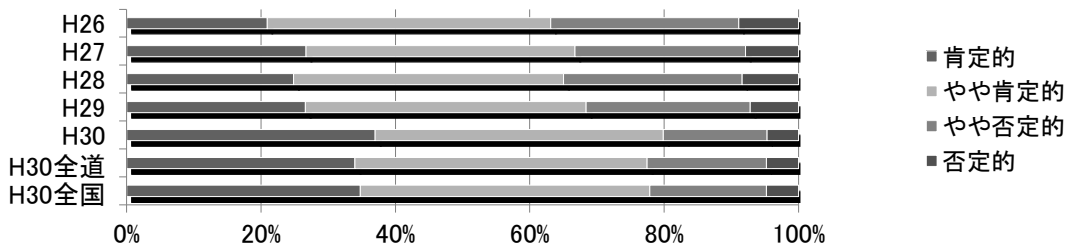
55 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(新設問)



56 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



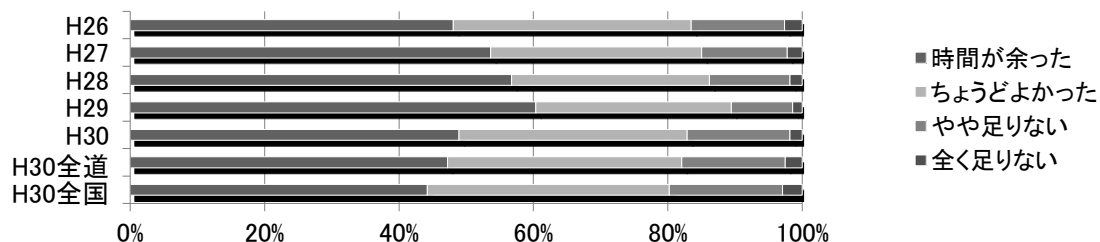
57 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができている。



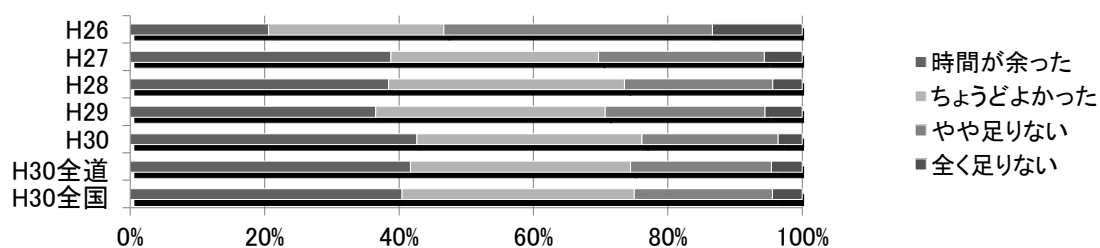
今回の調査問題

【考察】 A問題の解答時間については、国語、算数ともに、約8割の児童がちょうどよいと回答している。一方で、特に「算数Bの解答時間」について、足りないと感じている割合が高くなっている。B問題（活用）を意識した授業改善が求められる。

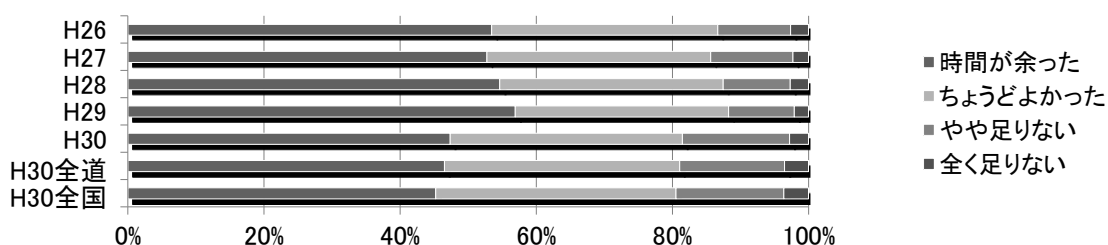
58 調査問題（国語A）の解答時間は十分だった。



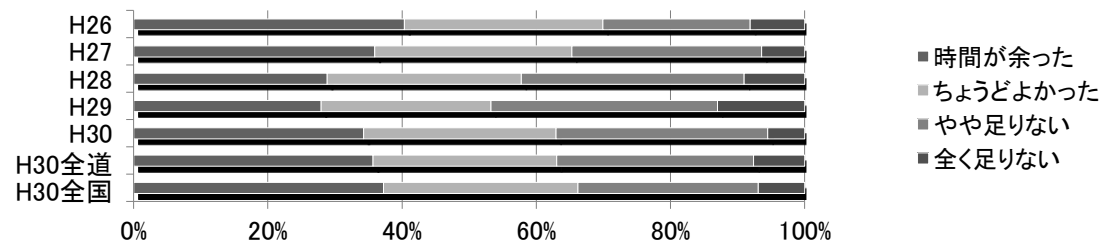
59 調査問題（国語B）の解答時間は十分だった。



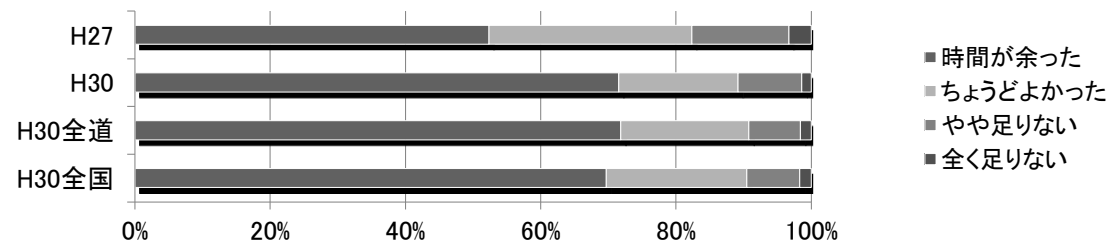
60 調査問題（算数A）の解答時間は十分だった。



61 調査問題（算数B）の解答時間は十分だった。



62 調査問題（理科）の解答時間は十分だった。



平成30年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

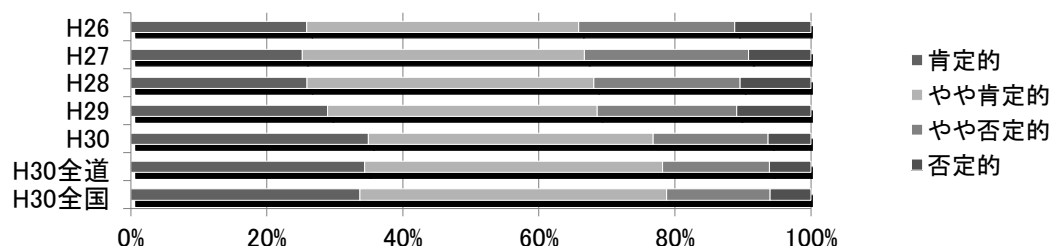
中学3年生徒

- ①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
- ②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
- ③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
- ④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

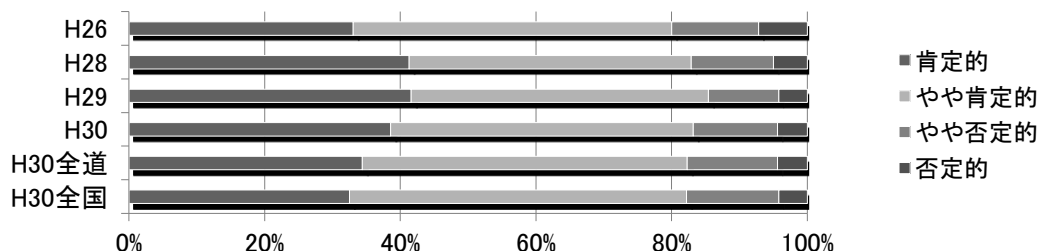
自己肯定感

【考察】 「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた生徒と「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒の割合が、過去最高値になっている。また「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した割合について、年々増加してはいるものの、依然として全国平均を下回っている。自己肯定感を育む取組を、今後も継続していくことが必要である。

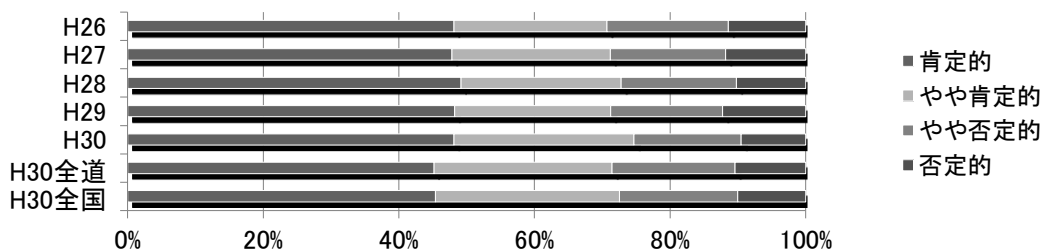
1 自分には、よいところがあると思う。



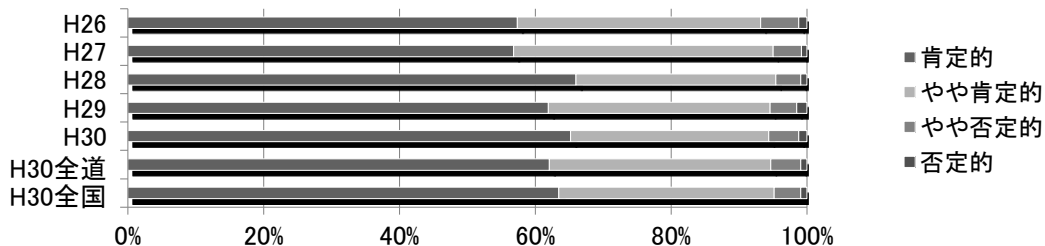
2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



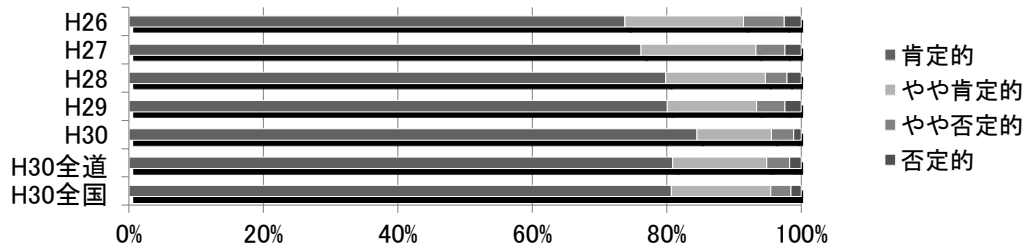
3 将来の夢や目標をもっている。



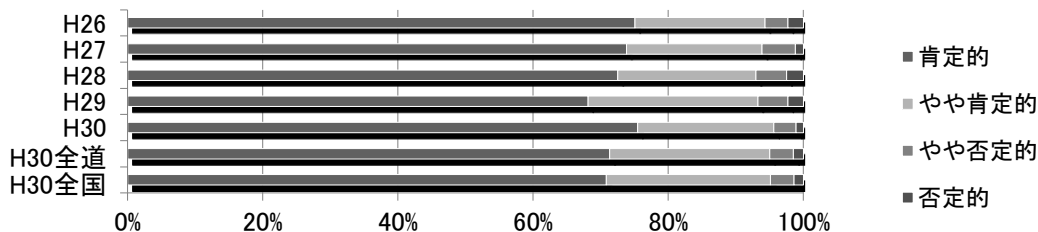
4 学校の規則を守っている。



5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



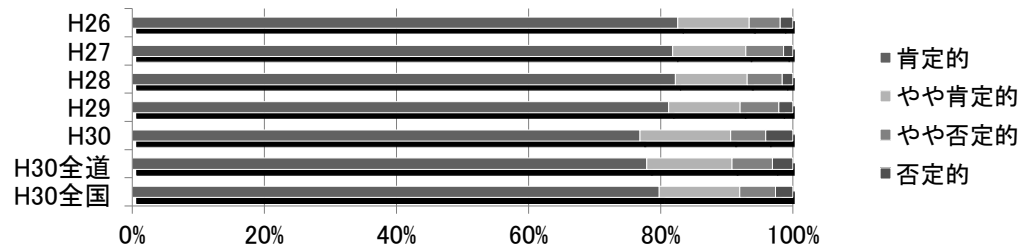
6 人の役に立つ人間になりたいと思う。



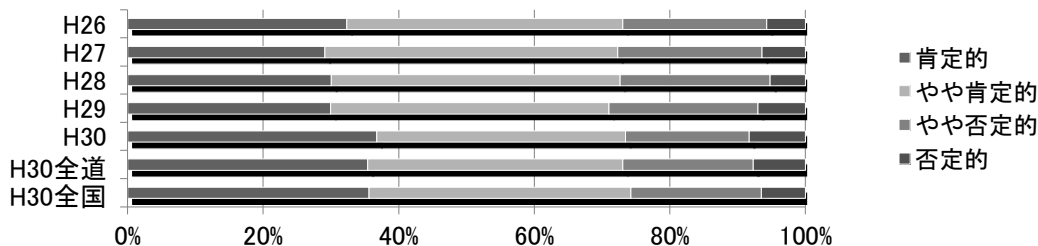
基本的な生活習慣

【考察】 基本的な生活習慣は、「朝食を食べている」割合と「同じ時刻に起きている」割合について、ここ5年間での最低値となっている。「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを意識させ、学校と家庭とが連携し基本的な生活習慣の見直しを図る必要がある。

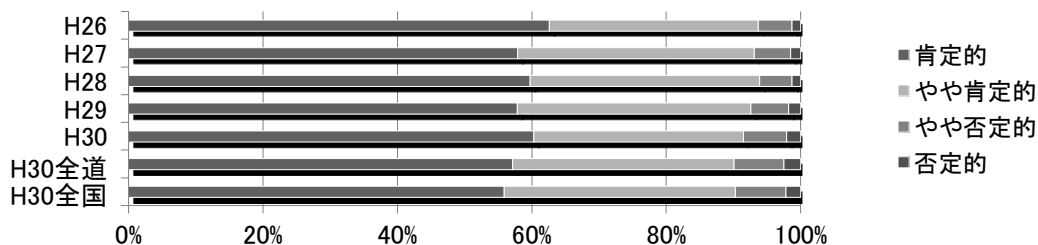
7 朝食を毎日食べている。



8 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



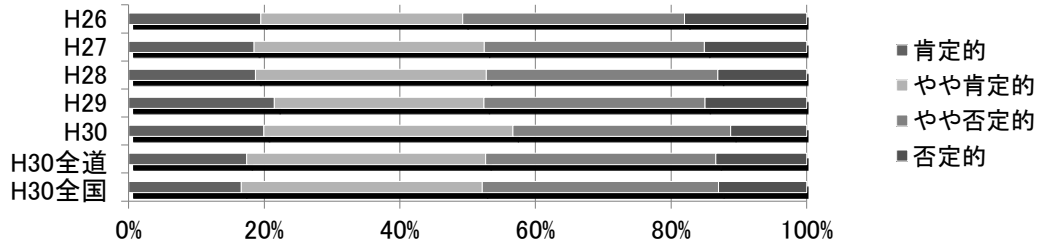
9 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



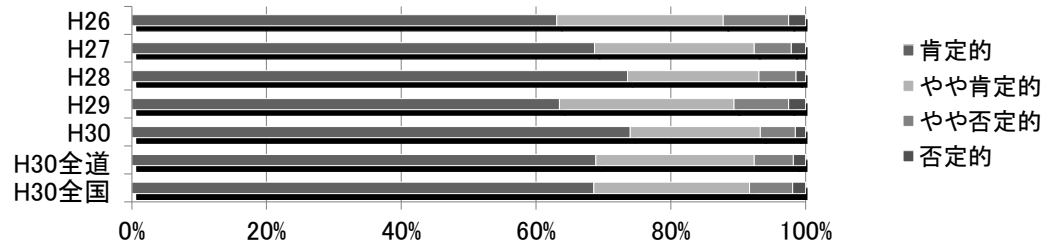
家庭生活(学習習慣・家族)

【考察】 普段(月～金)の学習時間について、2時間以上の割合が全国平均に比べてやや下回っている。
 大きな特徴がみられるのは、放課後の過ごし方と、週末の過ごし方である。「部活動」や「塾」「習い事」等の割合が少なく、家で「勉強・読書」「ゲーム等」の割合が高くなっている。

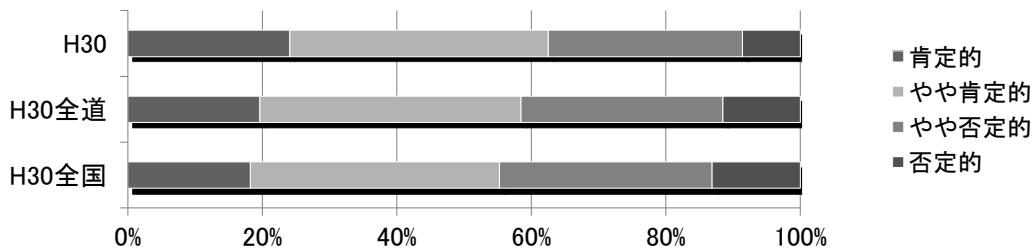
10 自分で計画を立てて勉強している。



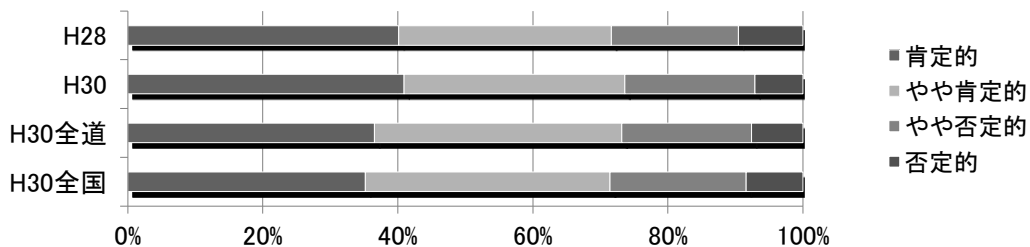
11 学校の宿題をしている。



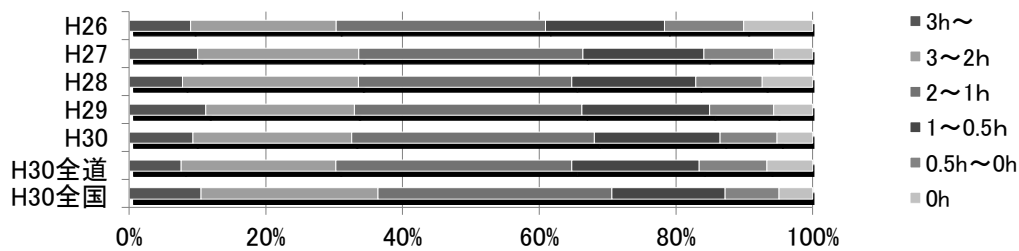
12 授業の予習・復習をしている。(新設問)



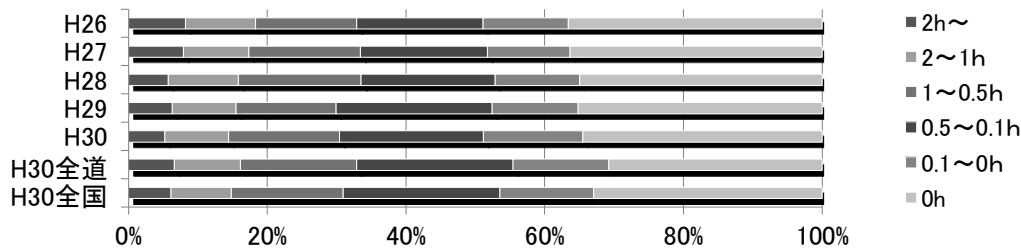
13 予習・復習やテスト勉強において、教科書を使いながら学習をしている。



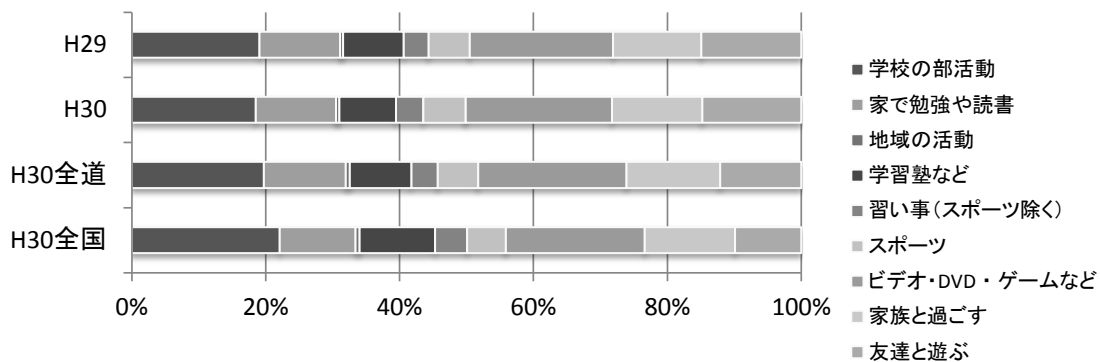
14 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。



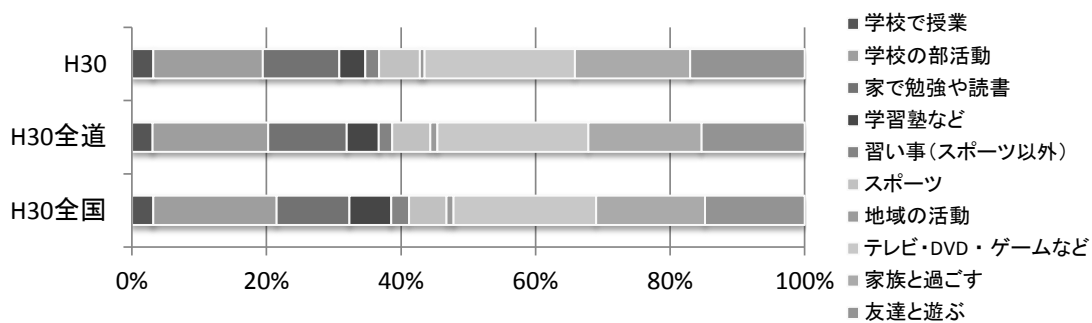
15 普段(月～金)、家や図書館における1日当たりの読書時間。



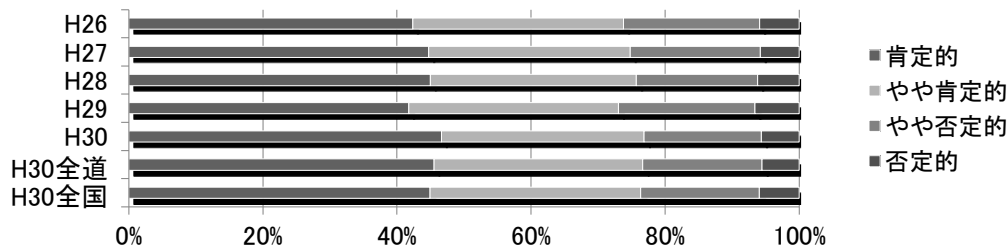
16 放課後に何をしておこなうことが多いか。



17 週末に何をしておこなうことが多いか。(新設問)



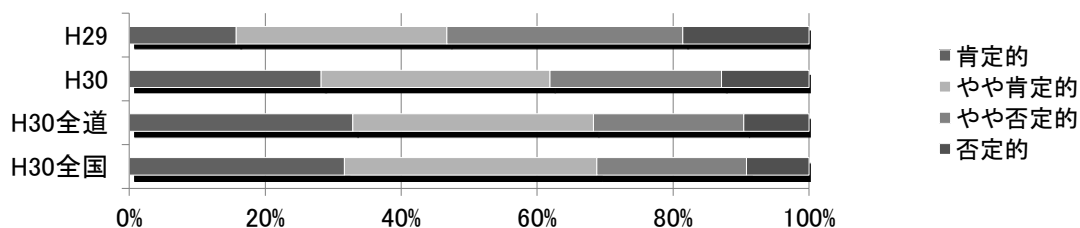
18 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしている。



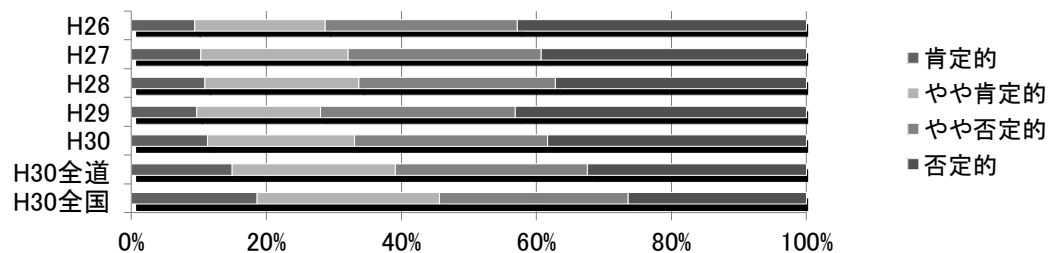
社会や地域への関心

【考察】 社会や地域への関心について、肯定的な回答の割合が、全て全国平均を下回っている。特に「地域の行事に参加している」割合は、全国平均を約12%下回っている。
 学校の教育活動全体を通して、社会や地域の一員としての意識をさらに向上させる必要がある。

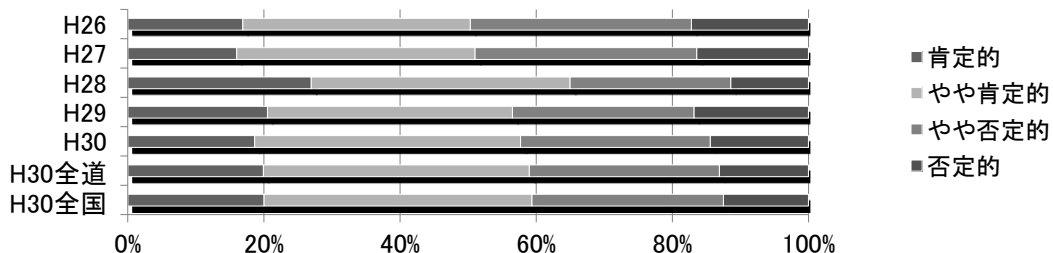
19 1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。



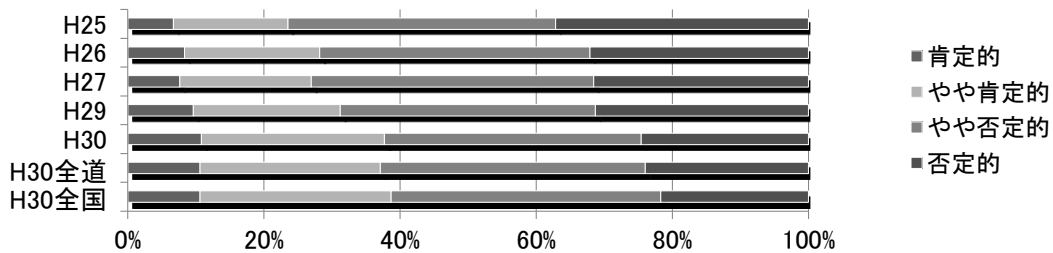
20 今住んでいる地域の行事に参加している。



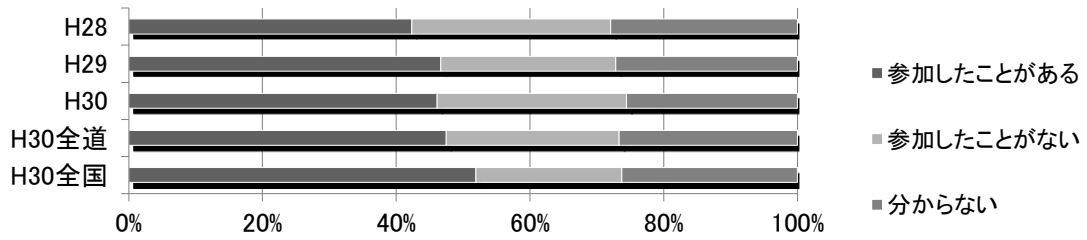
21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。



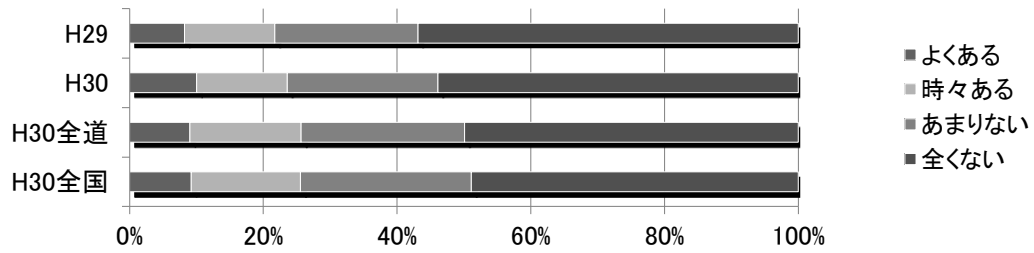
22 地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。



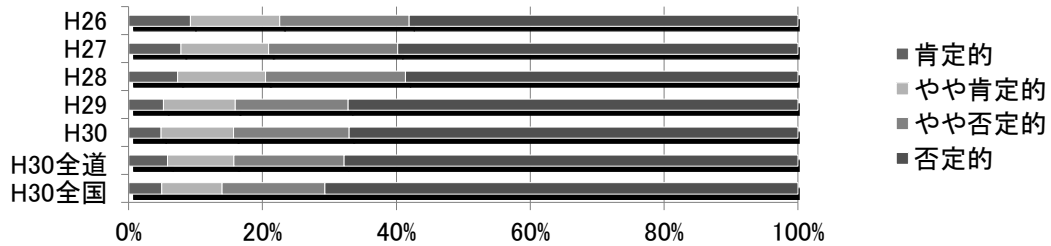
23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。



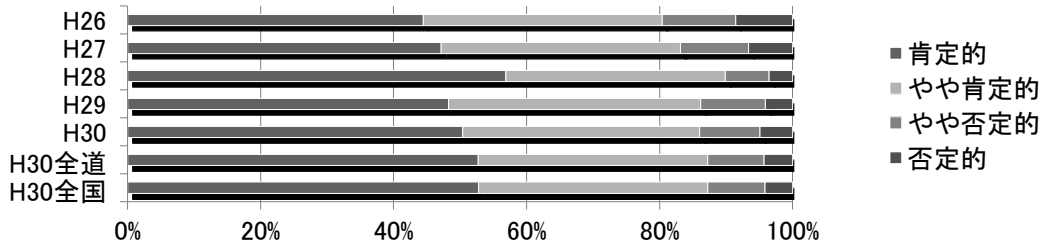
24 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。



25 新聞を読んでいる。



26 テレビやインターネットでニュースを見る。

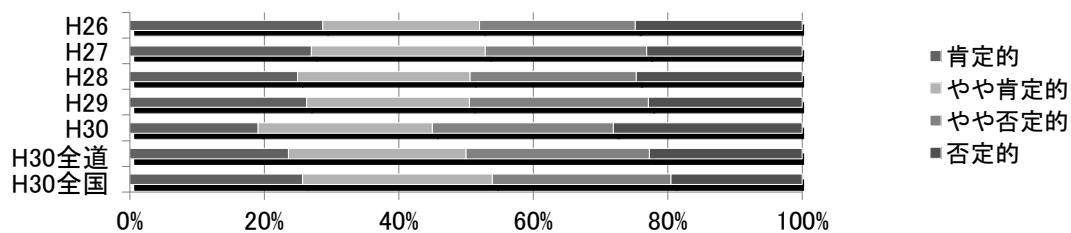


学習 (数学科に関して)

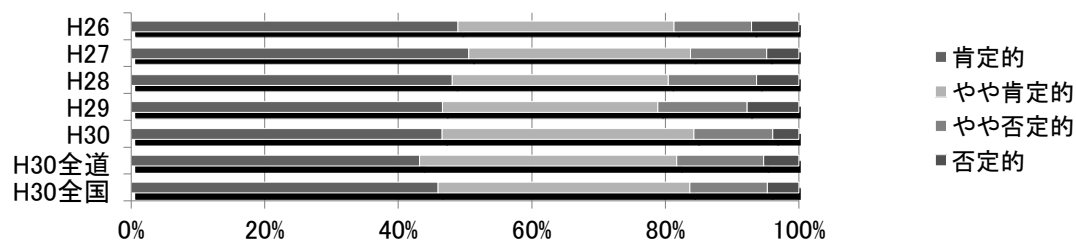
【考察】 数学科について「大切だと思う」、「もっとできるようになりたい」と思っているものの、「授業の内容が分からない」、「数学が好きではない」という傾向がある。授業の中で「分かる」喜びを味わわせ、数学的な考え方のよさに気付かせるような授業改善を進める必要がある。

〈数学科〉

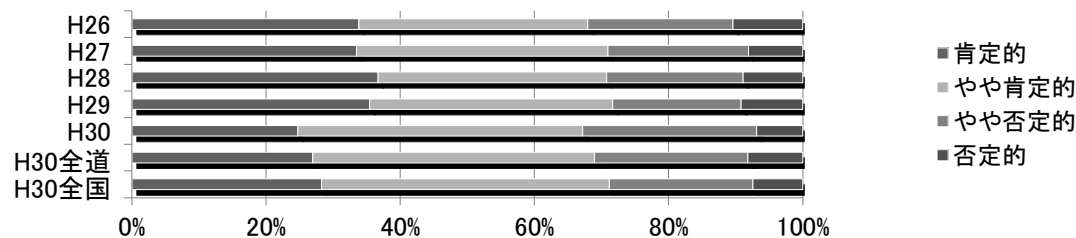
27 数学の勉強は好き。



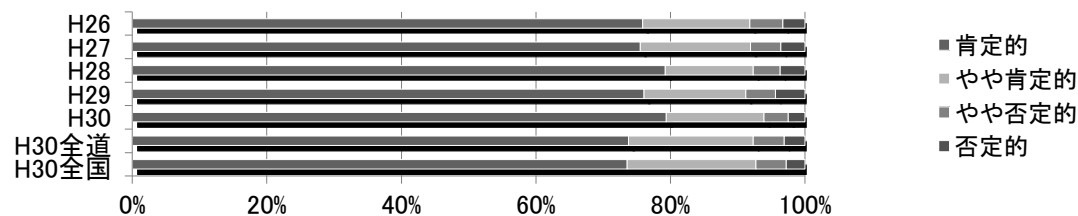
28 数学の勉強は大切だと思う。



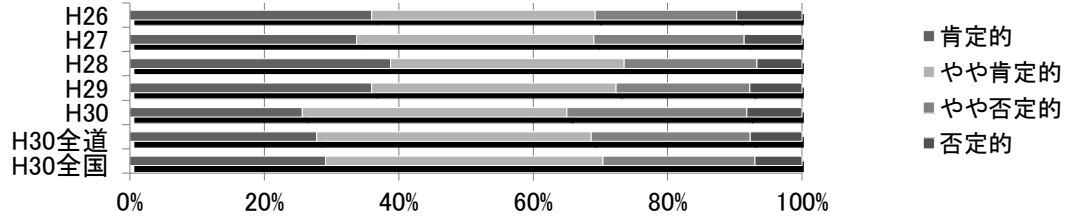
29 数学の授業の内容はよく分かる。



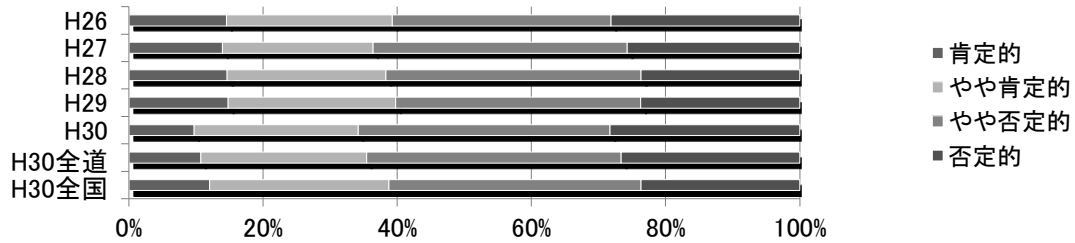
30 数学ができるようになりたいと思う。



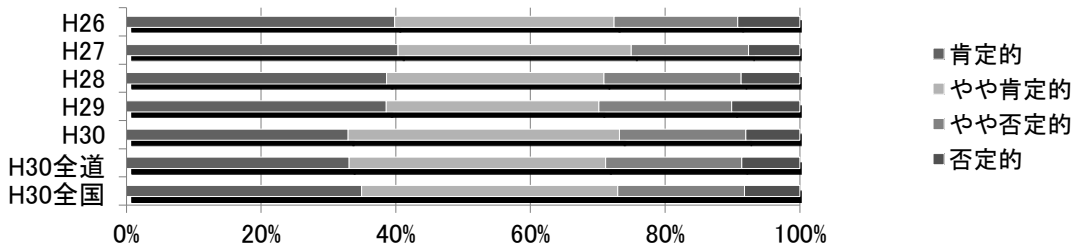
31 数学の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法で考える。



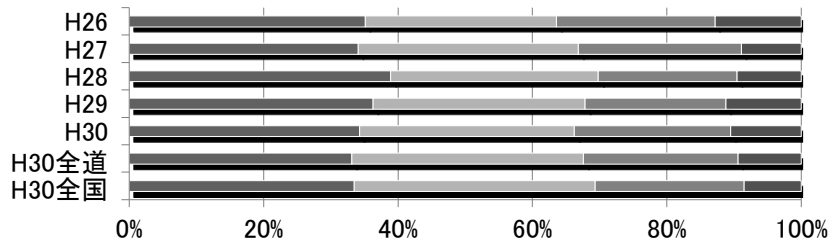
32 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



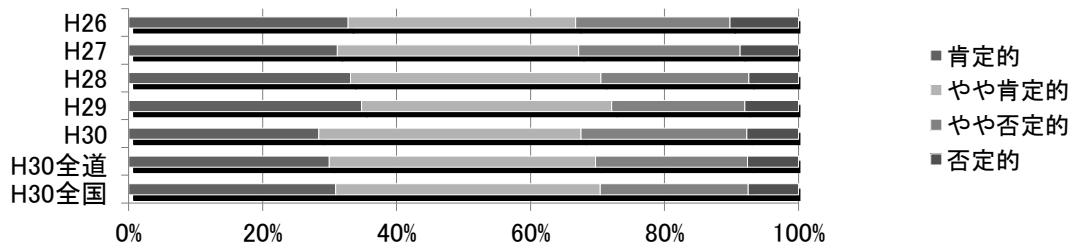
33 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



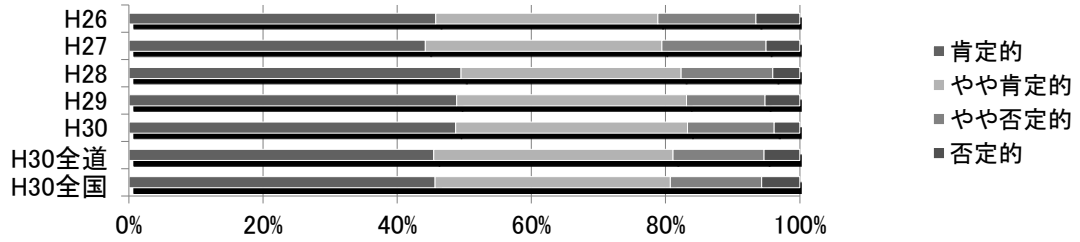
34 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。



35 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。

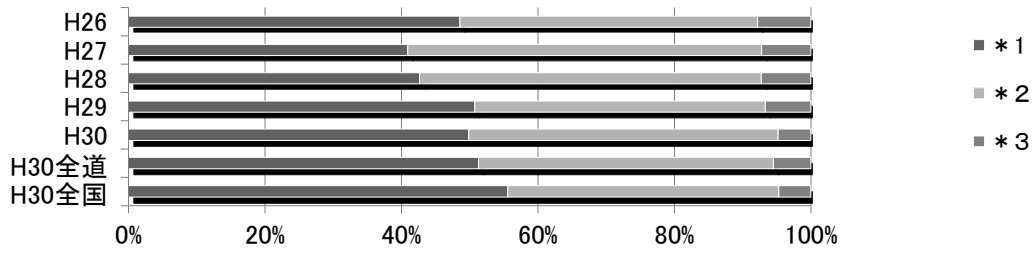


36 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。



37 今回の数学の問題について、言葉や数、式を使って説明する問題で、どのように回答したか。

- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く回答しなかった。



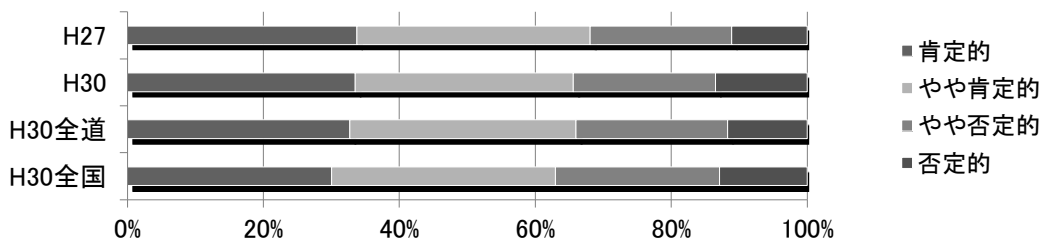
学習(理科に関して)

【考察】 多くの質問項目で、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。しかし、「自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている」割合と「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」割合が下回っている。

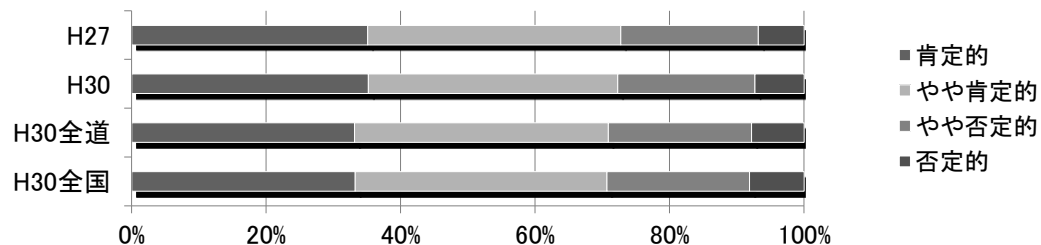
実験や観察を通して、自分の考えを説明したり発表したりする機会を設定し、生徒が主体的に学ぶことができるような授業改善が求められる。

〈理科〉

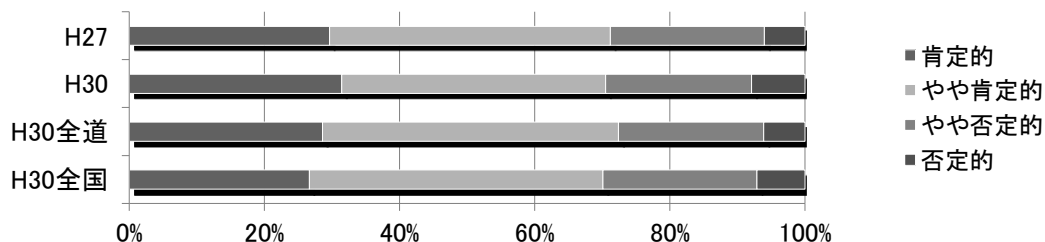
38 理科の勉強は好き。



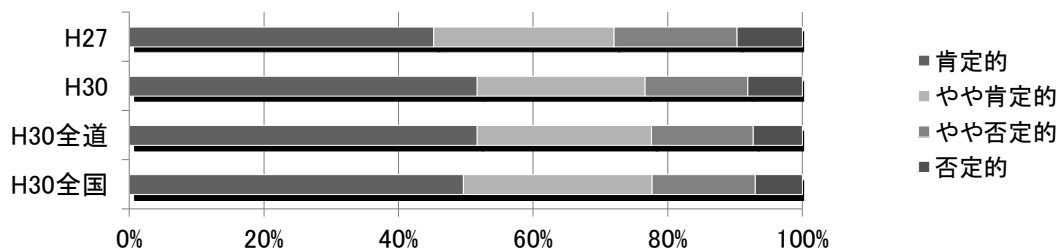
39 理科の勉強は大切だと思う。



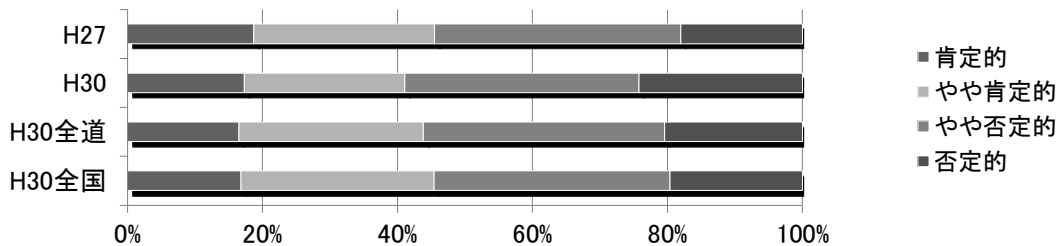
40 理科の授業の内容はよく分かる。



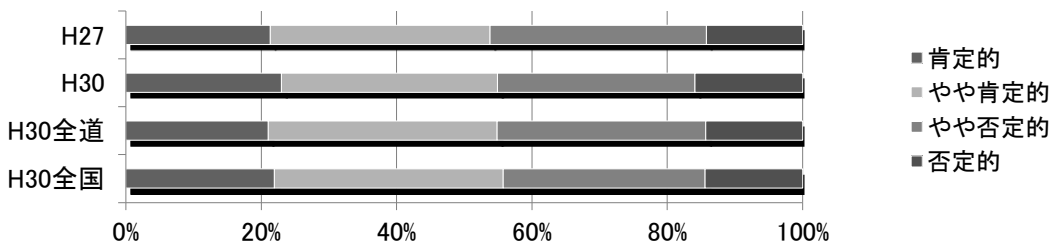
41 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。



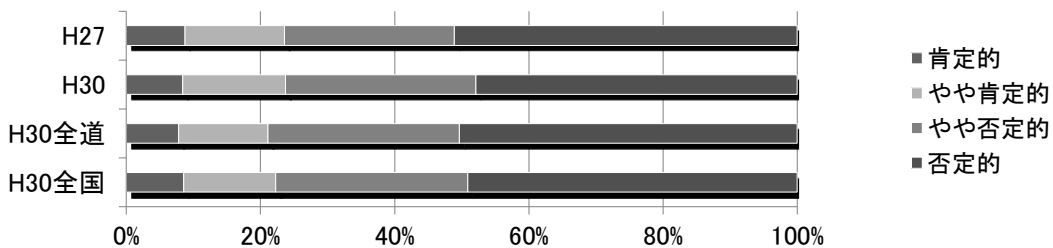
42 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



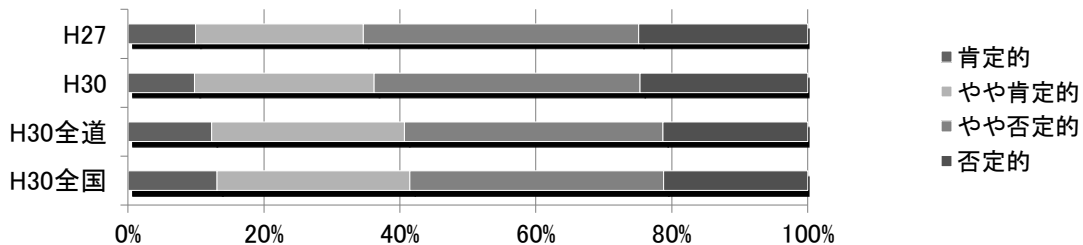
43 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



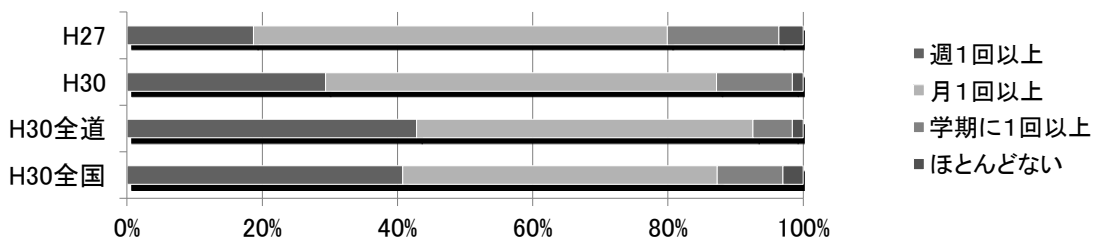
44 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。



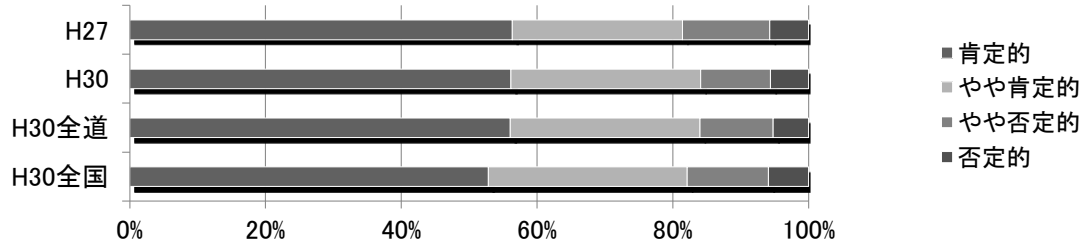
45 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている。



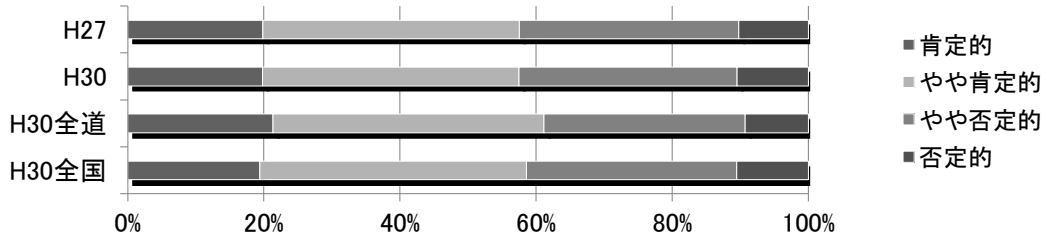
46 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行ったか。



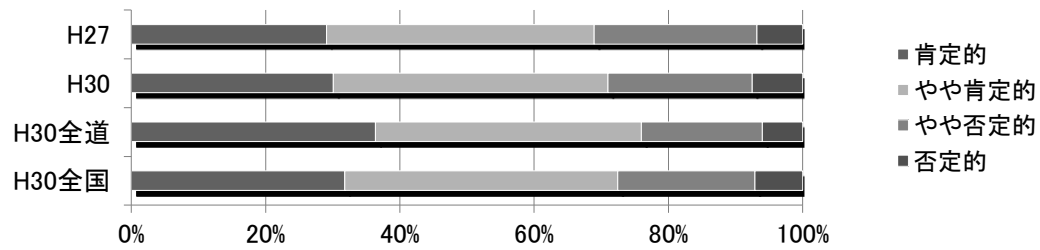
47 観察や実験を行うことは好きだ。



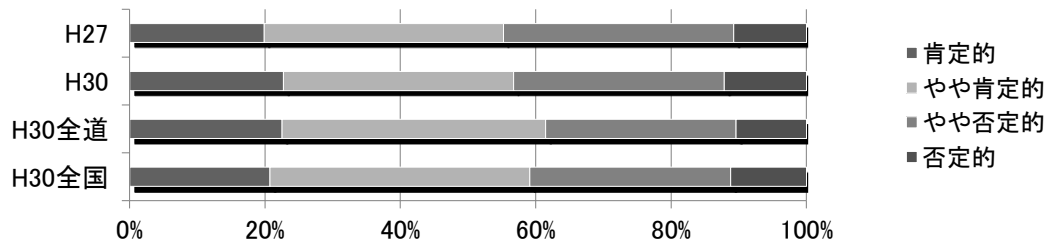
48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



49 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。

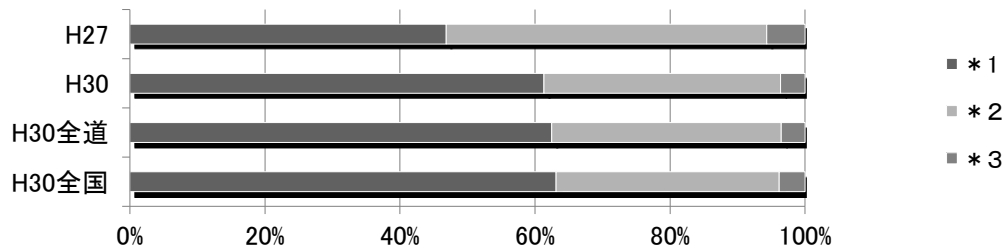


50 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。



51 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題でどのように回答したか。

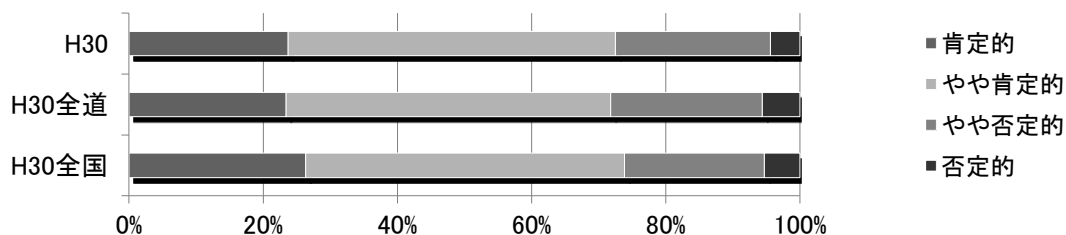
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く回答しなかった。



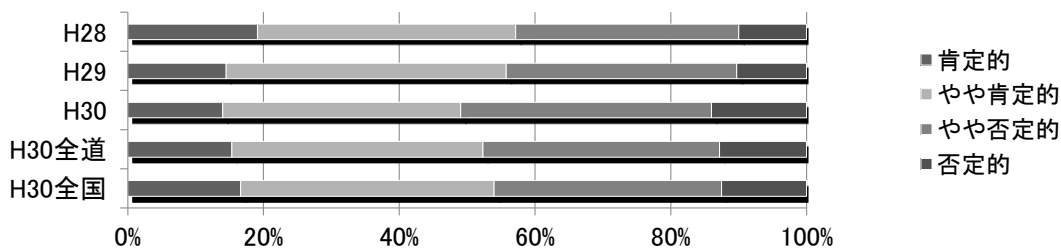
学習 (授業に関して)

【考察】 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」と回答した割合が、過去最高となった。一方で、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」と回答した割合は、過去最低となった。見直しをもたせ、効果的な資料活用を意識した授業改善が必要である。

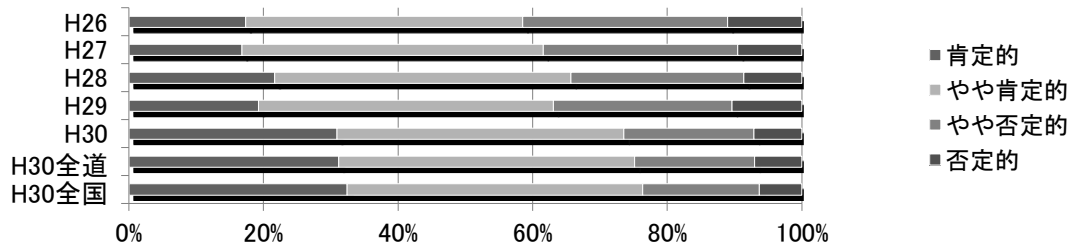
52 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(新設問)



53 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



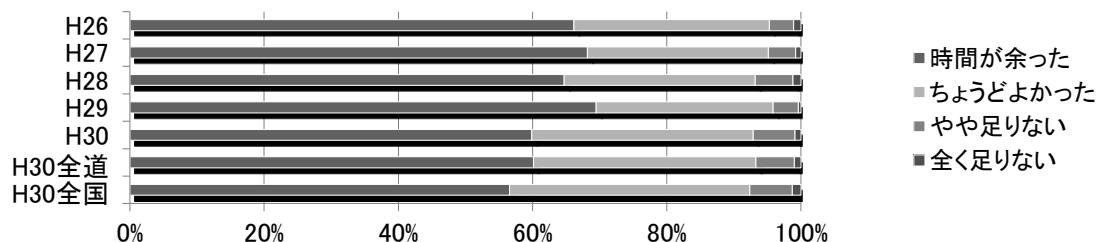
54 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。



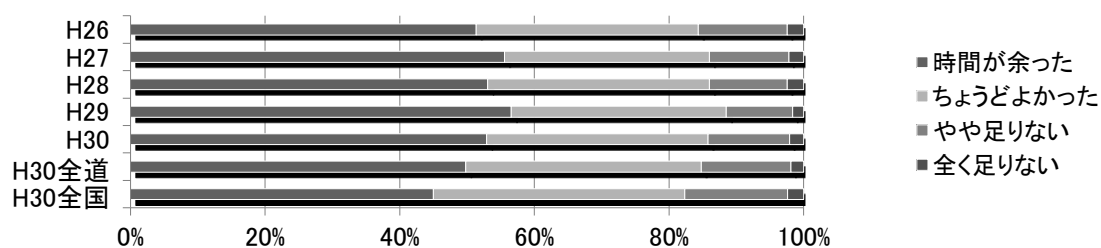
今回の調査問題

【考察】 全ての調査問題で、「時間が余った」、「ちょうどよかった」と回答している割合が、全国平均を上回った。解答時間に困難さを感じている様子がみられないことから、質問項目37と51の「諦めたものがあった」の割合を減らしていけるような支援の手立てを講じる必要がある。

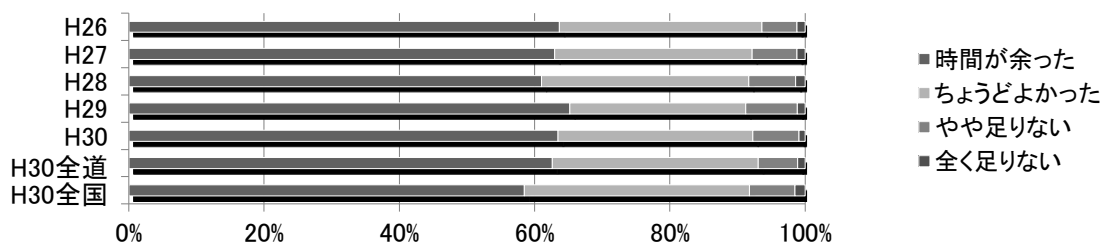
55 調査問題（国語A）の解答時間は十分だった。



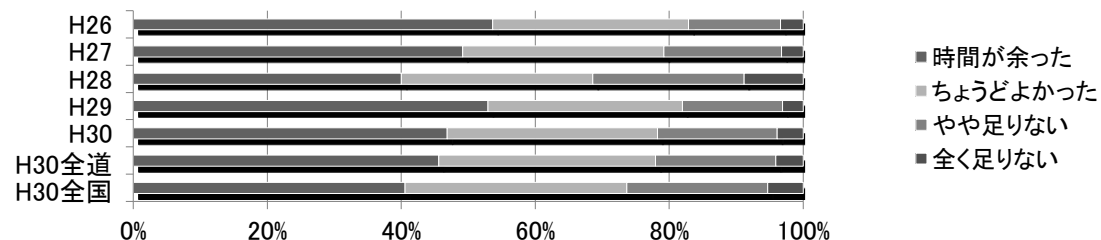
56 調査問題（国語B）の解答時間は十分だった。



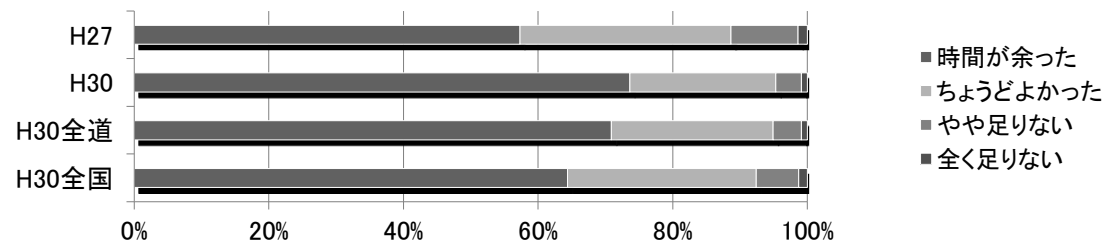
57 調査問題（数学A）の解答時間は十分だった。



58 調査問題（数学B）の解答時間は十分だった。



62 調査問題（理科）の解答時間は十分だった。



平成30年度全国学力・学習状況調査学校質問紙調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

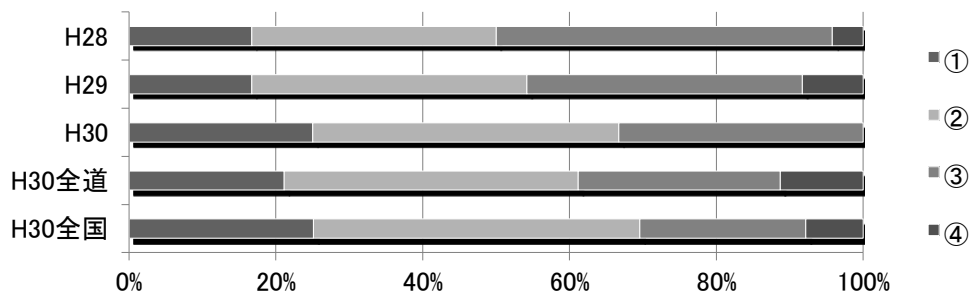
学力向上に向けた取組

〈小中連携〉

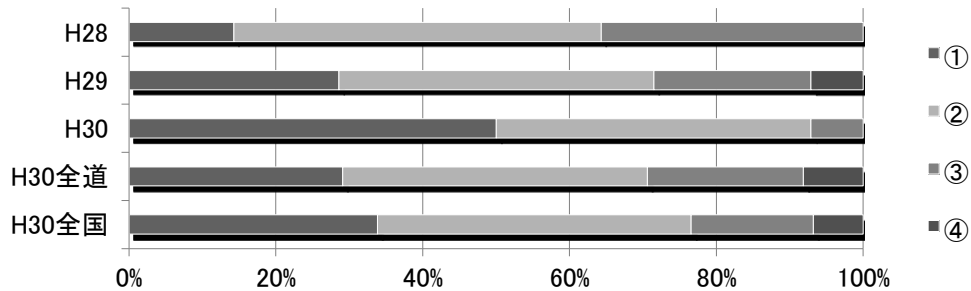
◆ 近隣等の中（小）学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った。

①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行っていない ④全く行っていない

【小学校】



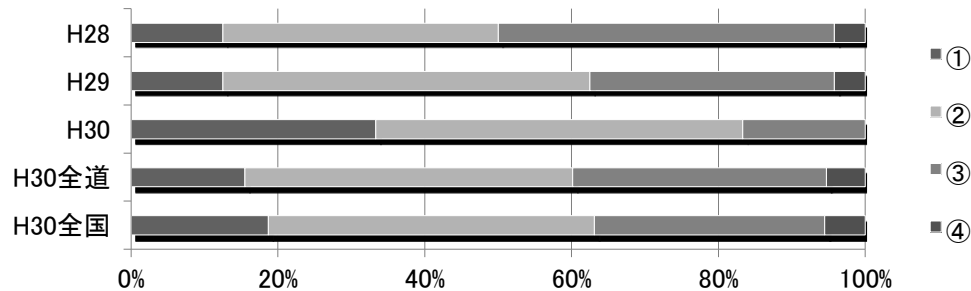
【中学校】



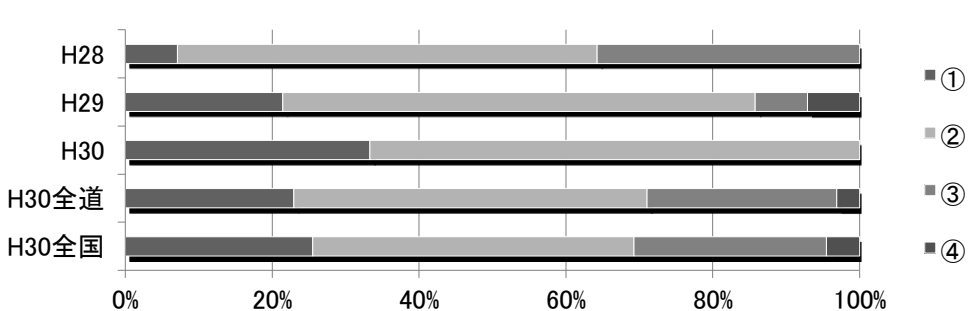
◆ 近隣等の中（小）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。

①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行っていない ④全く行っていない

【小学校】



【中学校】



【考察】

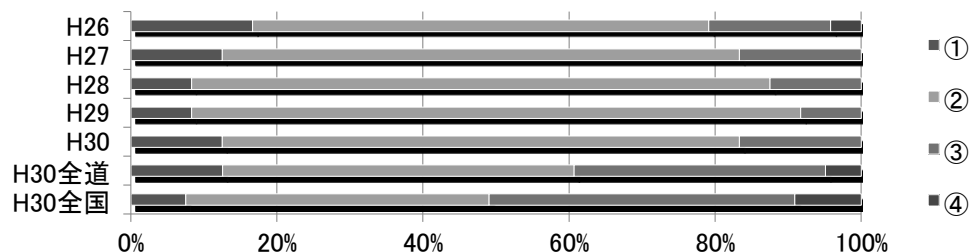
「教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組」について、全国平均を大きく上回っている。特に中学校においては、実施率100%となっている。また「授業研究等、合同研修の実施」についても全国平均を上回っている。各中学校区における学校教育力向上エリア会議の取組の成果がみられる。

〈博物館、科学館、図書館〉

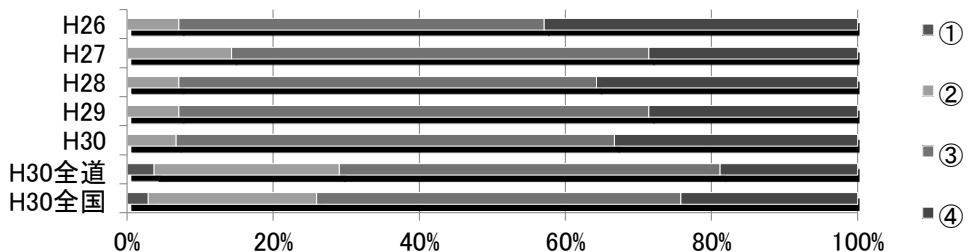
◆ 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った。

①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行っていない ④全く行っていない

【小学校】



【中学校】



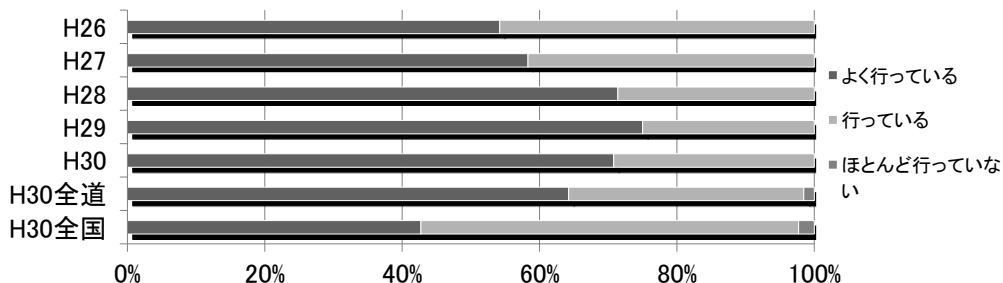
【考察】

中学校では、93%が「あまり行っていない」または「全く行っていない」と回答している。小学校では「よく行った」、「どちらかといえば行った」の割合が全国平均を大きく上回り、積極的な活用が図られている。

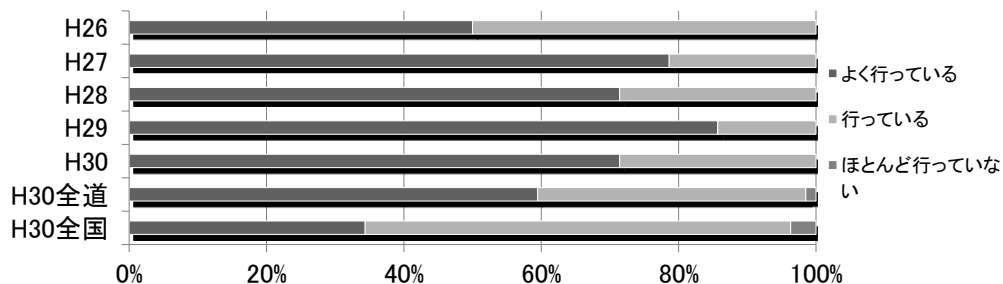
〈全国学力・学習状況調査の結果の活用〉

◆ 調査等の結果を学校全体で教育活動を改善するために活用した。

【小学校】



【中学校】



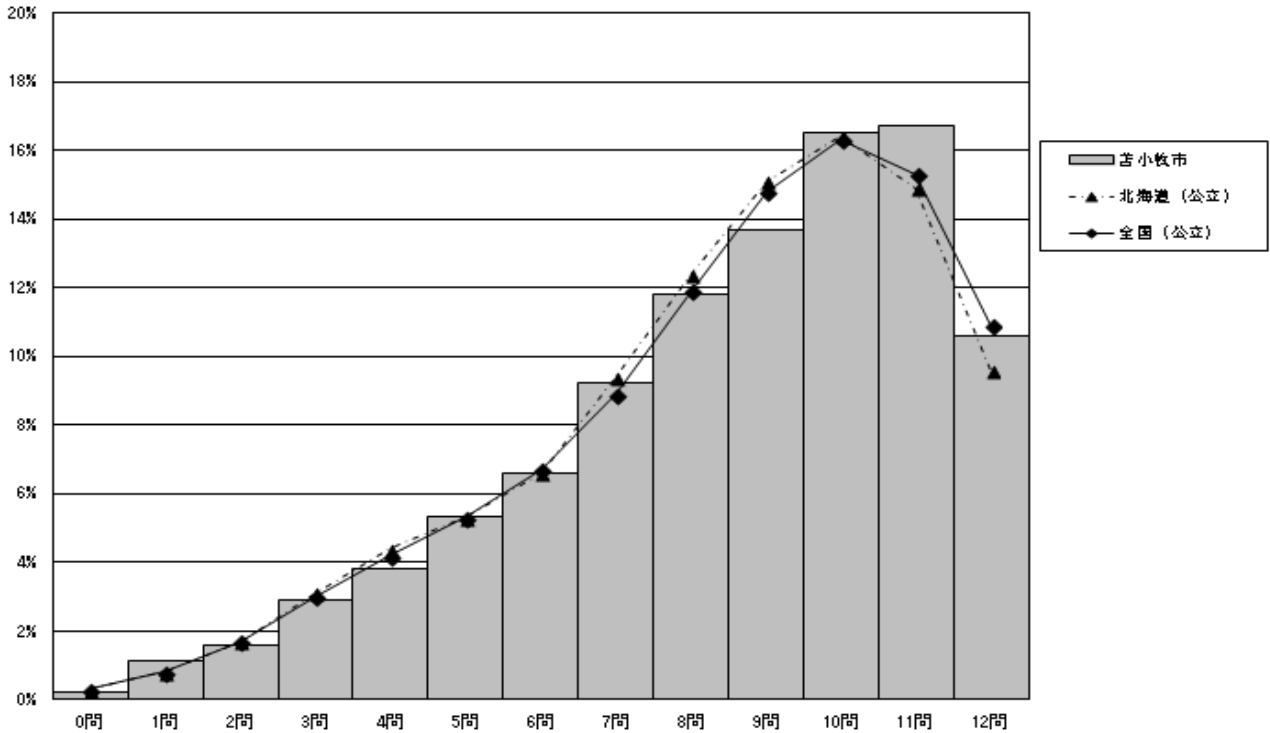
【考察】

小・中学校とも、「よく行っている」または「行っている」と回答した割合が、全国平均を大きく上回っている。各学校で、調査結果を分析し、授業改善に反映させる体制が定着していることがうかがえる。

調査結果概況 [国語A：主として知識]

苫小牧市教育委員会—児童

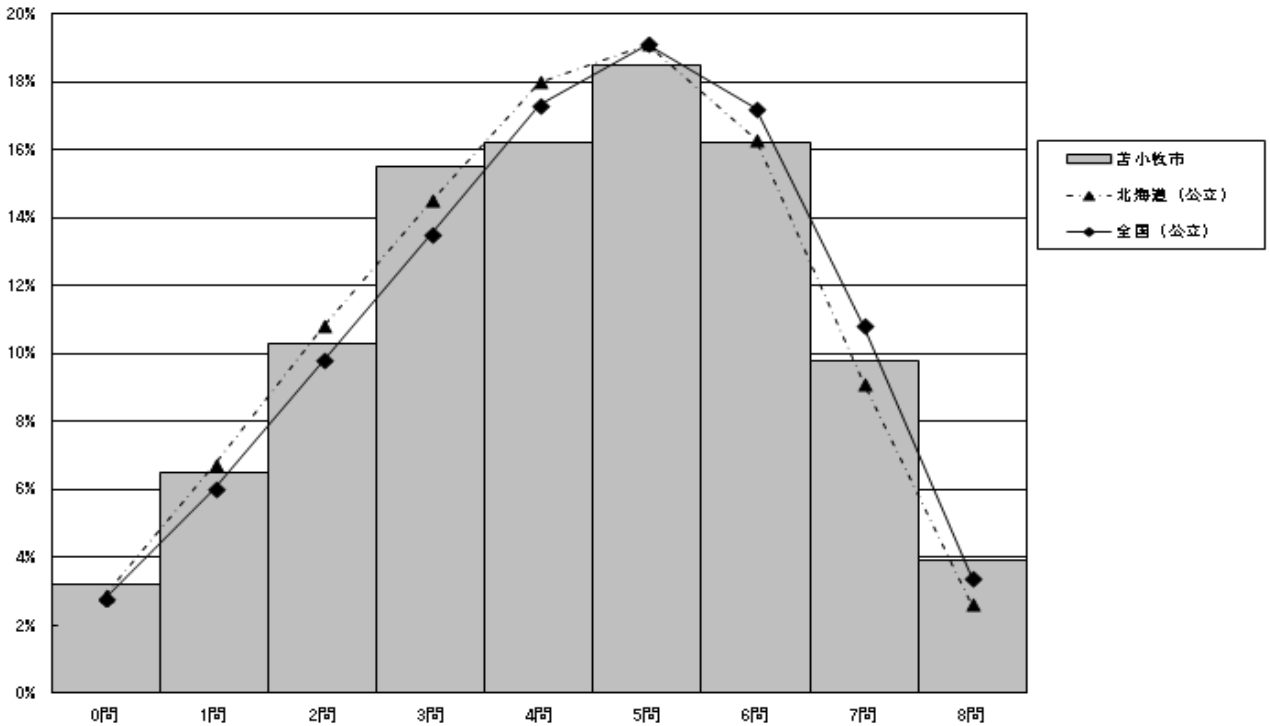
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [国語B：主として活用]

苫小牧市教育委員会—児童

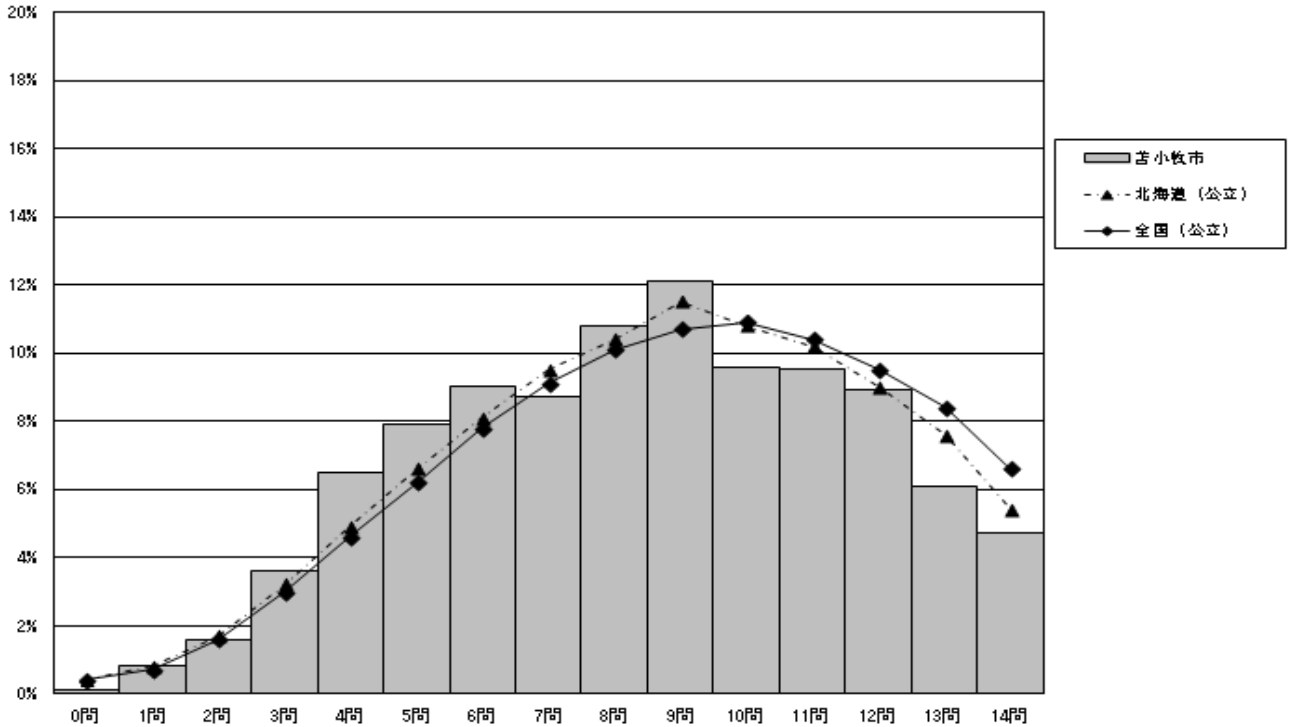
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [算数A：主として知識]

苫小牧市教育委員会—児童

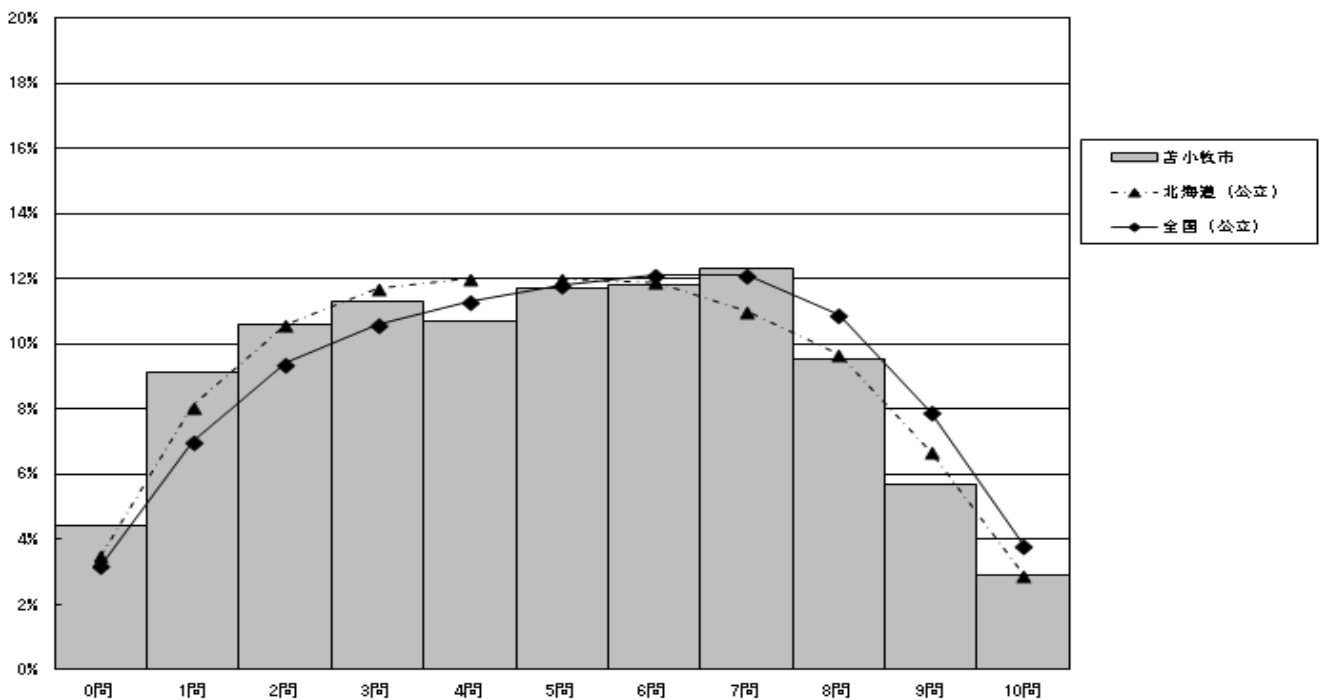
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [算数B：主として活用]

苫小牧市教育委員会—児童

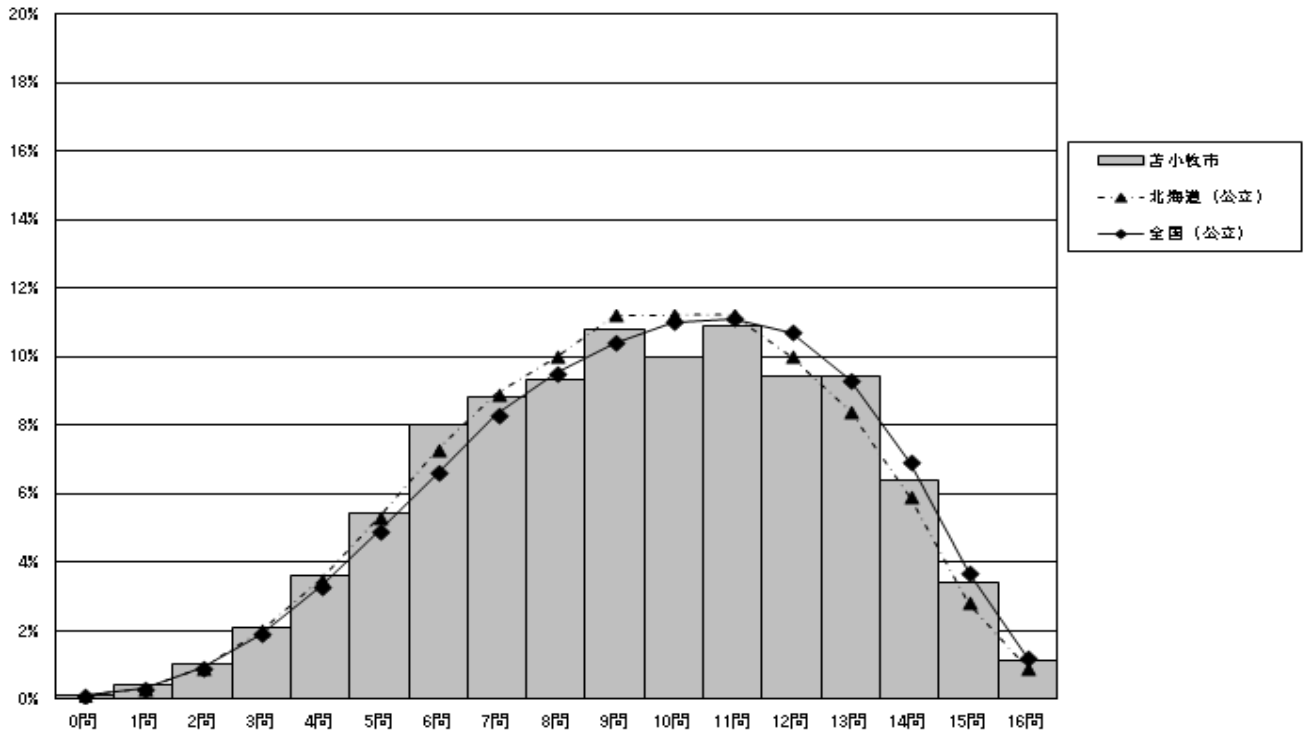
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概要 [理科]

苫小牧市教育委員会—児童

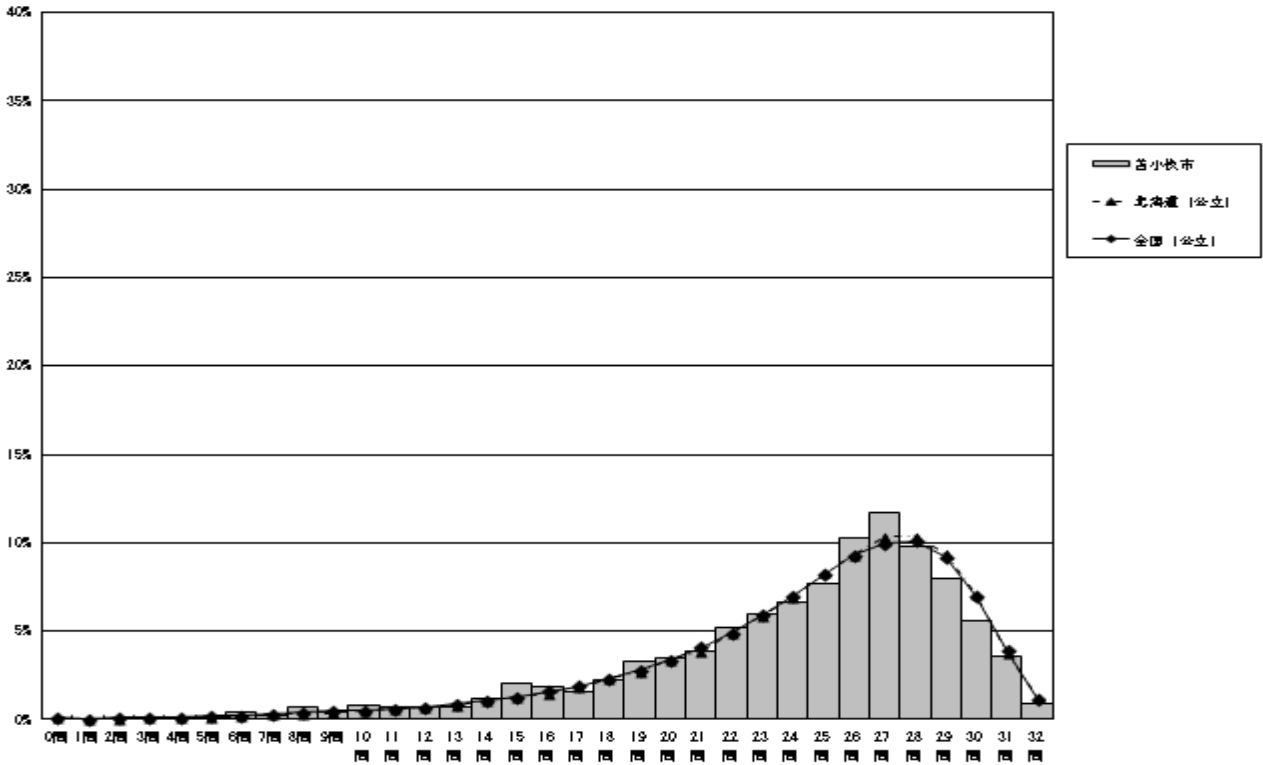
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [国語A：主として知識]

苫小牧市教育委員会—生徒

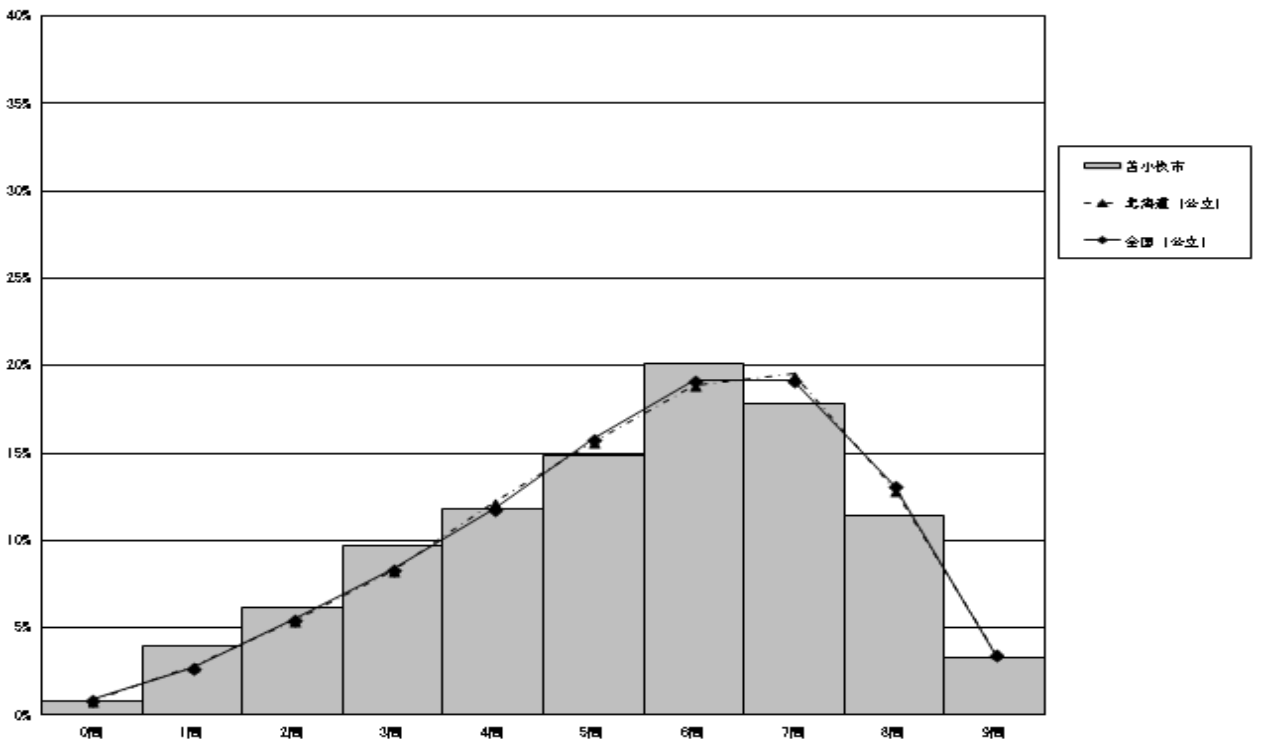
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [国語B：主として活用]

苫小牧市教育委員会—生徒

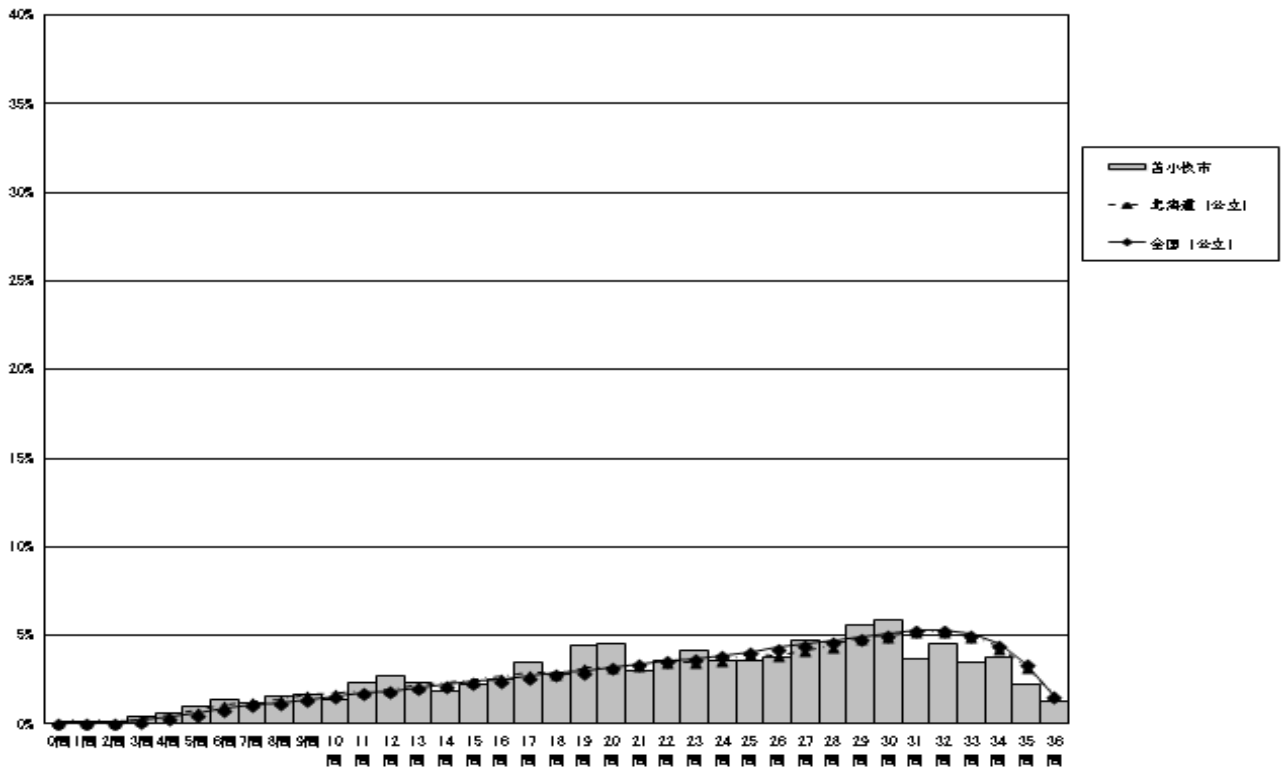
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [数学A：主として知識]

苫小牧市教育委員会—生徒

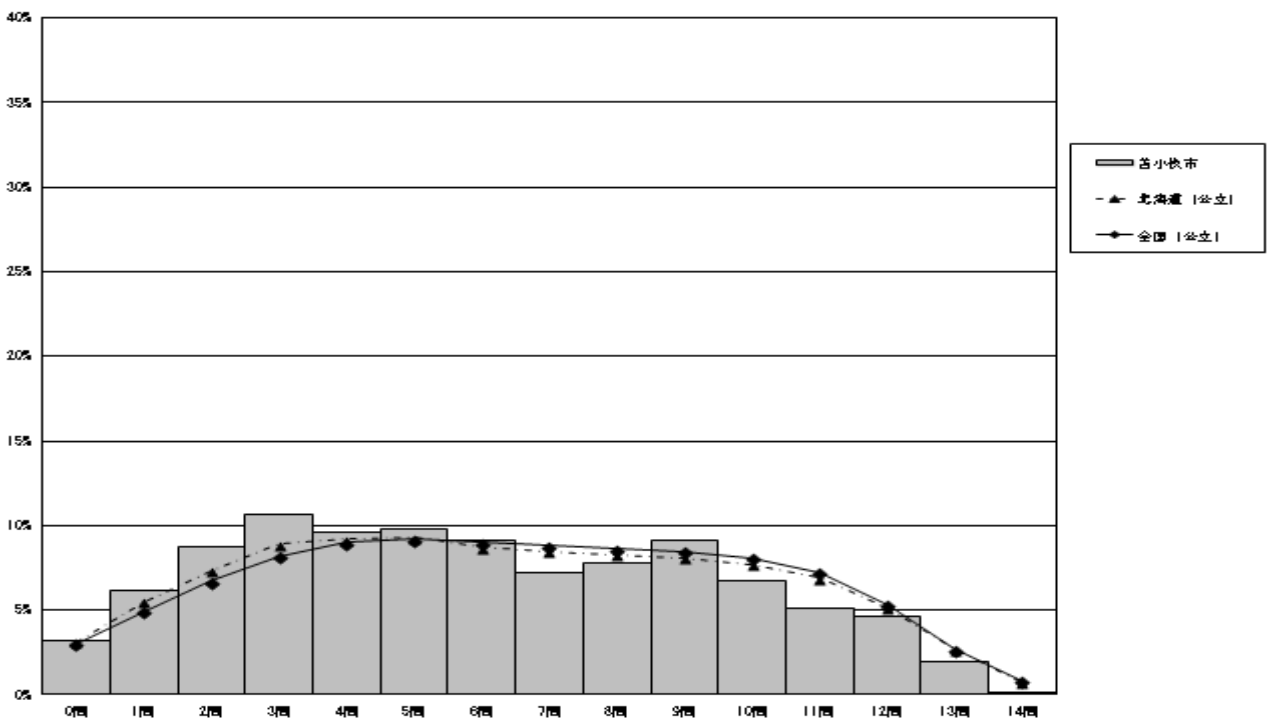
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概況 [数学B：主として活用]

苫小牧市教育委員会—生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



調査結果概要 [理科]

苫小牧市教育委員会—生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）

